

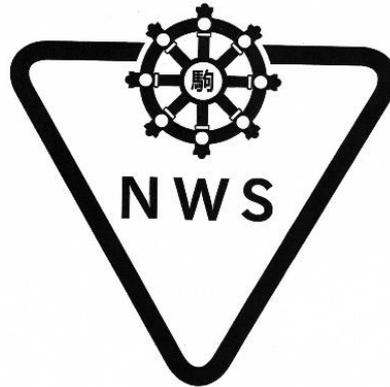
令和6年度 (2024年度) 授業計画

(新カリキュラム・旧カリキュラム)

学校法人駒沢岩見沢学園

駒沢看護専門学校

校章



N : Nurse 看護師、看護の意

W : Wefare 福祉、福利の意

S : Special 専門、特別の意

三角形の頂点は仏教の三つの宝である。

「仏（自由）・法（平等）・僧（平和）を配している。

上部には「法輪」と言ってお釈迦さまが最初に説法で示された「誰でも、何時でも、何処でも」

出来る「八つの人道」を象徴化したものを置きました。

それは、「正しく物事を見る。人の喜びを喜ぶ。思いやりを持って語る。疑われる行動を慎む。常

識的な生き方をする。自分の役割をしっかりと努める。物事に感謝する。落ち着いて対処する」実

践で、「安らぎ」の世界を実現できると説かれた。

校 是

本学は、駒澤大学の建学の精神に基づき 信、誠、敬、愛 を校是に掲げ、豊かな情操と透徹した知性によって、「行学一如」の実践に努める人間形成を教育の基本に据えている。

信 とは、かけがえない真実の自己に対する確認と他の生命の尊厳性を認め、互いに信じあうこと。

誠 とは、至誠の心をもって学業に精励し、正しい自己形成の道を限りなくひたむきに歩むこと。

敬 愛 とは、慈悲の営みであり、主体性を確立しながら共同体として、人間社会の連帯感に目覚め、互いに奉仕しあい慈しみあうこと。

目 次

新カリキュラム（2022年度入学生）	p.1
教育課程の考え方	p.2
1. 教育理念	p.3
2. 教育目的・教育目標	p.3
3. 教育目標	p.3
4. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	p.3
5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	p.4
6. 入学者受け入れの条件（アドミッション・ポリシー）	p.5
7. 学年目標	p.5
8. 主要概念	p.7
カリキュラムと教科外活動	p.9
1. 教育課程	p.10
2. 教育課程進度表	p.11
3. 1年次カリキュラム	p.12
4. 2. 3次カリキュラム	p.13
5. 教科外活動	p.14
授業科目と講義概要	p.15
基礎分野	p.16
専門基礎分野	p.19
専門分野	p.21
1) 基礎看護学	p.21
2) 地域・在宅看護論	p.24
3) 看護の統合と実践	p.28
4) 臨地実習	p.37
複数教員が担当する科目の配点表	p.45

目 次

旧カリキュラム（2021年以前の入学生）	p.50
教育目的	p.51
教育目標	p.51
目指す看護師像	p.52
学年目標	p.53
カリキュラムと教科外活動	p.55
授業科目と講義概要	p.62
基礎分野	p.63
看護の統合と実践	p.65
専門分野Ⅱ 臨地実習	p.74
統合分野 臨地実習	p.80
複合科目の単位認定	p.83
旧カリキュラム未修得者対応科目	p.86

新カリキュラム (2022年度入学生)

教育課程の 考え方

1. 教育理念

本学は、駒澤大学の建学の精神である「仏教」の教えと「禅」の精神に基づき、社会や医療の急速な変化や国際化に対応するとともに、保健医療福祉チームの一員として地域住民一人ひとりの健康と福祉に貢献する看護職者を育成することを使命とする。

「仏教」の教えと「禅」の精神である「行学一如」の実践に務め、加えて高い倫理観をもつ看護の専門職を育成することを目指している。「行学一如」の「行」とは実践であり、「学」とは学問研究であり、実践と学問研究を一体化することを意味し、校是である「信誠敬愛（シンセイケイアイ）」は、「行学一如」を具現化したものである。

本学では、看護とは、人間個々の有している能力を最大限に発揮できるように、基本的欲求の充足に視点をおき、生活を整える実践活動であり、あらゆる健康のレベルの個人および家族と集団を援助する社会的活動であるととらえている。さらに、看護は、人間愛と生命の尊厳を護ることを基盤に、対象者との関係を形成しながら支援する活動であり、看護職は保健医療福祉チームと協働し、変化する社会の中での役割を認識し、人々の健康状態の向上に寄与することを目指している。

2. 教育目的

「仏教」の教えと「禅」の精神を基盤として、専門的な知識・技術に加えて高い倫理観をもった看護専門職者として、惜しみなく社会に貢献しうる人材を育成する。

3. 教育目標

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 2) 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と人間関係を形成する能力を養う。
- 3) 看護師としての責務を自覚し、倫理的な判断に基づいた看護を対象者のQOLの向上を考えて、実践する基礎的能力を養う。
- 4) 多様な健康課題を明確にし、対象者の個別性に合わせて看護を実践するための科学的・論理的思考能力を養う。
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連する各職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を養う。
- 6) 看護職者として、看護の質の向上を図るために、向上心をもち自己研鑽する能力を養う。

4. 卒業認定・学位授与の方針（デュプロマ・ポリシー）

- 1) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を修得している。
- 2) 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と、人間関係を形成する能力を身につけている。
- 3) 対象者のQOLの向上を目指し、倫理的判断に基づいた看護を実践するための基礎的能力を身につけている。
- 4) 対象者の健康課題の解決に向けて、科学的・論理的な判断に基づいた看護を検討する能力を身につけている。
- 5) 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連する各職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を修得している。

6) 自己の学修状況を振り返り、看護の専門職として自己研鑽する姿勢を身につけている

5. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

看護の専門職業人として必要な知識・技術を学修し、人間愛とに基づいた対人関係を形成しながら看護を実践する力を備え、地域社会に惜しみなく貢献できる看護職者を育成するために、以下の方針に基づき教育を実施し、ディプロマポリシーの達成を図る。

- 1) 教育課程は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野である看護学から構成され、カリキュラムデザインは、基礎となる基礎分野、専門基礎分野の授業科目の学修と同時に看護学の専門知識・技術を系統的、段階的に学修できるよう配置する漸進型デザインとする。
- 2) 基礎分野は、「専門基礎分野」、「専門分野」の基盤として、科学的思考力を養い、看護の対象である人間と生活・社会の理解についての内容で構成する。「科学的思考の基盤」では、物理学的視点から看護技術を学ぶ内容と論理的な思考の強化、情報通信技術（ICT）を活用するための基礎的な知識・技術を学習する科目で構成する。「人間と生活・社会の理解」では人間・社会についての幅広い理解と社会関係を形成するために必要な科目で構成する。さらに、本学は、建学の精神に仏教の教えを基盤に据えていることから、仏教学の基礎的知識を含めている。
- 3) 専門基礎分野は、専門分野である看護学の基盤として「人体の構造と機能」、「疾病の成り立ちと回復の促進」からなり、様々な健康レベルある対象に必要な観察力・判断力を養い、科学的根拠に基づいた看護を実践するための基礎的知識を学ぶ内容としている。さらに、健康や障害の状態に応じた社会資源を活用するために、「健康支援と社会保障制度」を学び、保健医療福祉チームと連携・協働するための基礎的知識で構成している。とくに、地域・在宅で生活する人々の健康課題と健康管理の現状に焦点を当てた「健康管理論」、地域・在宅医療の現状と課題及び多職種連携について学ぶ「地域・在宅医療論」を設け、地域・在宅看護論に繋がられるようにする。
- 4) 専門分野は、8看護学領域から成り立っている。看護に共通する基礎的知識・技術・態度を内容とする「基礎看護学」、地域・在宅で療養する人々とその家族の生活に視点をおいた多様な場で展開される看護、多職種連携を内容とする「地域・在宅看護論」、人間の成長発達と様々な健康状態の看護に焦点をおいた「小児看護学」「成人看護学」「老年看護学」、周産期を中心に女性の一生に焦点をおいた「母性看護学」人間の心・精神の健康に焦点をおいた「精神看護学」、専門基礎分野と領域別の看護学で学んだ内容を統合し、看護実践能力の強化を図る「看護の統合と実践」である。

さらに、成人看護学、老年看護学、小児看護学に関連・共通する内容をまとめた領域横断科目を、「人間発達論」、「周術期看護」、「セルフマネジメントを支える看護」、「がん看護」の4科目を設定した。

臨地実習では、既習の知識・技術をもとに、看護実践の場面に適用し、看護理論と実践を結びつけられるように、学内の授業進度を工夫するとともに、「看護研究」の授業で看護実践を振り返る機会を設けている。さらに、実習施設が多岐に渡っていることから、実習指導教員、実習指導者との連絡・調整を密にすることを心がけている。各看護学の臨地実習において機会を逃さずに保健・医療・福祉との連携・協働、チーム医療、多職種連携を学ぶことができるよう調整を図るとともに、地域・在宅看護論実習、看護統合実習においては意図的に学習内容に挙げている。

- 5) 教育方法では、学生の主体性を育むために、アクティブラーニングを用いた授業を各学年に実施することとした。

具体的には、グループダイナミクスを考慮した少人数による演習、臨場感のもてるシミュレーション教育、関心のある看護・医療分野の文献検索と先行研究の知見を得られる教育環境

を整えることなどが挙げられる。

6. 入学者受け入れの条件（アドミッション・ポリシー）

本学では、「行学一如」の実践に務め、加えて高い倫理観をもつ看護の専門職を育成するため、次のような学生を求める。

- 1) 人々の健康と生活に関心をもち、看護職として地域社会に貢献しようとする意志がある人。
- 2) 入学後の学習に必要な基礎学力を有し、自分自身の健康管理ができる人。
- 3) 豊かな感性をもち、柔軟に物事を考え、誠実で責任感のある人。
- 4) 物事に積極的に、誠実に、責任をもって取り組む姿勢のある人
- 5) 人々との交流を大切にし、他者を尊重し、思いやりのある関係を築ける人。

7. 学年目標

ディプロマ・ポリシー	2年次到達目標	1年次到達目標
1. 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を修得している。	1. 人間は、受胎から死まで絶えず成長発達を続ける存在であることを理解し、各発達段階の課題の達成状況をとらえられる。 2. 様々な発達段階にある人間を身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された存在としてとらえられる。 3. 人間は、環境と相互に作用し、変化するとともに人間の健康に影響を与えていることを理解できる。	1. 人間の身体のしくみと働きについて理解できる。 2. 人間の成長発達について、各期の特徴と発達課題の達成状況からとらえられる。 3. 人間を身体的・精神的・社会的側面をもつ統合された存在としてとらえられる。 4. 人間は、環境と相互に作用しながら影響を受け、変化する存在であることを理解できる。
ディプロマ・ポリシー	2年次到達目標	1年次到達目標

<p>2. 生命の尊厳と人間愛を基盤に、一人ひとり異なる価値観をもつ人々と、人間関係を形成する能力を身につけている。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理と医療・看護における倫理的課題について考えられる。 2. 生命の尊厳と人々の権利を尊重し、かけがえのない人間として尊重する態度を身につける。 3. 相手の立場に立ち、傾聴・共感の姿勢をもち、関係を形成できる。 4. 自己および他者を理解し、他者を尊重して、互いに支え合い、成長し合う関係を築くことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命の尊さについて考えられる。 2. 人間は様々な社会的文化的な背景の中で、個々のパーソナリティと価値観を培っていることを理解できる。 3. 異なる価値観をもつ人を理解し、関係を形成しようと努力できる。 4. 自己の言動を振り返り、自己と他者の言動を客観的にとらえられる。
<p>3. 対象者の QOL の向上を目指し、倫理的判断に基づいた看護を実践することができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な対象者に合わせて実践した看護を QOL と倫理的な視点で振り返られる。 2. 対象者の特徴に合わせて、安全・安楽・自立を考えた看護を実践できる。 3. 対象者の QOL の向上を目指した看護を検討できる。 4. 医療・看護の安全を考慮することができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護実践を倫理的な視点で振り返り、対象者の立場に立ち、よりよい看護について考えられる。 2. 看護を実践するために必要な看護技術を身につけられる。 3. 対象者の特徴に合わせて、安全・安楽を考えた看護を実践できる。 4. 医療安全の意義を理解できる
<p>4. 対象者の健康課題の解決に向けて、科学的・論理的な判断に基づいた看護を検討する能力を身につけることができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識に基づき、収集した情報を科学的・論理的に分析し、対象者の健康に関する課題をとらえられる。 2. 対象者の症状や訴えから健康状態をとらえるための知識、判断力、思考力を身につけようと努力できる。 3. 対象者の健康上の課題の解決に向けて、根拠に基づいた個別性のある看護を考えられる。 4. 看護実践の効果について検討できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康上の課題を科学的根拠に基づいて解決するための方法を理解できる。 2. 対象に応じた看護行為の根拠を考慮することができる。
<p>ディプロマ・ポリシー</p>	<p>2 年次到達目標</p>	<p>1 年次到達目標</p>
<p>5 保健・医療・福祉システムにおける看護職及び関連す</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健・医療・福祉チームが連携・協働していることをイメージ化 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会において保健・医療・福祉チームが果たしている役割・

<p>る各職種の役割を理解し、多職種と連携・協働する基礎的能力を修得している。</p>	<p>できる。</p> <p>2. 看護チームの一員としてメンバーの役割を果たすことができる。</p> <p>3. 対象者の看護および保健医療福祉チームの連携・協働する場面の見学をとおして、看護職の役割を考えられる。</p>	<p>機能を理解できる。</p> <p>2. 保健・医療・福祉チームにおける看護職の役割を理解できる。</p> <p>4. グループのリーダーとメンバーの役割を理解し、グループの一員として協力・連携することができる。</p> <p>3. 看護チームの一員として、役割を果たそうと努力できる。</p>
<p>6 自己の学修状況を振り返り、看護の専門職として自己研鑽する姿勢を身につけている。</p>	<p>1. 実践した看護を振り返り、看護についての考えを述べられる。</p> <p>2. 興味・関心のある分野の文献の知見を得て、自己研鑽に励むことができる。</p> <p>3. 学習姿勢及び実践した看護を振り返り、自己課題を明確にし、解決に向けて努力できる。</p>	<p>1. 看護学のみならず、社会情勢及び他の学問分野に関心をもち自己研鑽しようと努力できる。</p> <p>2. 学内の授業および臨地実習を通して、自己課題を明確にし、解決に向けて努力できる。</p>

8. 主要概念

カリキュラムを編成するにあたって、基本となる主要概念は下記のとおりとらえている。

<人間>

1. 人間は、信念、価値観などの固有の自己概念をもつ存在であり、一人ひとり尊重されるべき存在である。
2. 人間は、身体的・精神的・社会的に統合された存在である。
3. 人間は、受胎から死まで絶えず成長発達し続ける存在であり、各発達段階には達成や獲得が期待される課題がある。
4. 人間は、環境と相互作用しながら、主体的に環境に働きかけ、変化する存在である。
5. 人間は、社会関係の中で学び、互いを支え合い成長していく存在である。
6. 人間は、豊かなコミュニケーションおよび思考能力、意思決定力、感情を有し、家族を含めた他者との関係を形成する。

<環境>

1. 環境は、自然・社会・生活などの外部環境と身体内部の生理的・心理的機能の内部環境がある。
2. 環境と人間は、相互に影響し合い環境を変化させ、直接的、間接的に人間の健康や成長発達に変化を与えている。
3. 社会は、生活の基盤となる地域社会、家庭があり、独自の規範・習慣を有する。
4. 社会は、政治、経済、法律、文化、教育、保健、医療、福祉などの機能を有する。

<健康>

1. 健康は、良好な状態から死に至るまで連続的・流動的に変化するものであり、身体的・精神的・社会的側面が互いに影響し合っている。
2. 良好な健康とは、自らの能力を最大限に発揮し調和が取れている状態である。
3. 健康は、生活のあり方および生活の自律性に影響され、環境との相互作用のなかで変化する個別的なものである。
4. 健康は、その人らしい生活を営むための基盤となるものであり、基本的な権利である。
5. 健康は、生きていくうえで基本となるものであり、一人ひとりの人生の目標を達成するための手段である。

<看護>

1. 看護は、様々な成長・発達段階にあるすべての人、あらゆる健康レベルの個人とその家族および集団を対象とする。
2. 看護は、人々の健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、その人らしく生を全うできるように支援することを目的とする
3. 看護は、人間個々の有している能力を最大限に発揮できるように、基本的欲求を充足できるように生活を整える実践活動である。
4. 看護は、人間愛と生命の尊厳を護ることを基盤に、対象者との関係を形成しながら支援する活動である。
5. 看護は、社会のニーズに対応し、保健医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働し、看護の専門職として独自の役割を担う。
6. 看護は、看護・医療事故の予防ができ、安心・安全で質の高い看護を提供することを目指す。

<学修・教育>

1. 学修とは、学修者が主体的に経験を意味づけし自己成長していく過程であり、内発的動機づけで促進される。
2. 教育とは、学修者と教育者の相互作用であり、教育者は学習環境を整え、学修者の能力を伸長し変化するように意図的・計画的に働きかけることである。
3. 教育者と学修者は互いに尊重し、影響を受けながら、ともに成長する関係形成を目指すものである。
4. 看護基礎教育は、専門職業人として看護を追求していくための基盤となり、看護学の発展に寄与するものである。

カリキュラムと 教科外活動

教育課程

分野	科目名	単位数	時間数		備考	分野	科目名	単位数	時間数		備考
			講義	実習					講義	実習	
基礎分野	科学的思考の基礎	看護物理学	1	15		地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15		
		論理学	1	30			地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30		
		情報処理演習	1	15			地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30		
		情報技術と看護	1	15			地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30		
		法学入門	1	15			家族看護論	1	15		
	人間と生活の理解	心理学	1	30			多職種連携	1	30		
		人間関係論	1	30			成人看護学	成人看護学概論	1	30	
		仏教学概論	1	15		成人看護学援助論Ⅰ		1	30		
		生命倫理	1	15		成人看護学援助論Ⅱ		1	30		
		社会学	1	30		成人看護学援助論Ⅲ		1	30		
		英語Ⅰ	1	30		老年看護学	老年看護学概論	1	15		
		英語Ⅱ	1	30			老年看護学援助論Ⅰ	1	30		
		日本語表現	1	15			老年看護学援助論Ⅱ	1	30		
		教育学	1	30		小児看護学	小児看護学概論	1	30		
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15			小児看護学援助論Ⅰ	1	30		
		解剖生理学Ⅱ	1	30			小児看護学援助論Ⅱ	1	30		
		解剖生理学Ⅲ	1	30		母性看護学	母性看護学概論	1	30		
		解剖生理学Ⅳ	1	30			母性看護学援助論Ⅰ	1	30		
		生化学	1	30			母性看護学援助論Ⅱ	1	30		
		臨床栄養学	1	15			母性看護学援助論Ⅲ	1	15		
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	30		精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	1	15		
		薬理学Ⅰ	1	30			精神看護学概論Ⅱ	1	30		
		薬理学Ⅱ	1	30			精神看護学援助論Ⅰ	1	30		
		微生物学	1	30			精神看護学援助論Ⅱ	1	30		
		病態治療論Ⅰ	1	30			看護の統合と実践	看護管理	1	30	
		病態治療論Ⅱ	1	30		医療安全		1	30		
		病態治療論Ⅲ	1	30		災害看護と国際看護		1	30		
		病態治療論Ⅳ	1	30		看護統合演習		1	30		
リハビリテーション概論		1	15		領域横断科目	人間発達論		1	30		
病態治療論演習		1	15			周術期看護	1	30			
健康支援と社会保障制度	医療概論	1	15			セルフマネジメントを支える看護	1	30			
	地域・在宅医療論	1	15			がん看護	1	30			
	社会福祉	1	30		臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	45			
	関係法規	1	15			基礎看護学実習Ⅱ	2	90			
	公衆衛生学	1	15			地域・在宅看護論実習	2	90			
健康管理論	1	15		成人看護学実習Ⅰ		2	90				
専門分野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30			成人看護学実習Ⅱ	2	90		
		看護学概論Ⅱ	1	30			成人看護学実習Ⅲ	2	90		
		共通基本技術	1	30			老年看護学実習Ⅰ	2	90		
		日常生活援助技術Ⅰ	1	30			老年看護学実習Ⅱ	2	90		
		日常生活援助技術Ⅱ	1	30			小児看護学実習Ⅰ	1	45		
		フィジカルアセスメント技術	1	30			小児看護学実習Ⅱ	1	45		
		診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15			母性看護学実習	2	90		
		診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30			精神看護学実習	2	90		
		看護過程	1	30			看護統合実習	2	90		
		看護研究の基礎	1	15							
		看護研究	1	30							

合計

基礎分野<14単位(315時間)> 専門基礎分野<22単位(525時間)> 専門分野 講義<79単位1185時間)> 臨地実習<13単位(1035時間)>

総計 102単位(3060時間)

1年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数		
			講義	実習				講義	実習	
基礎分野	看護物理学	1	15		専門分野	看護学概論Ⅰ	1	30		
	情報処理演習	1	15			看護学概論Ⅱ	1	30		
	法学入門	1	15			共通基本技術	1	30		
	心理学	1	30			日常生活援助技術Ⅰ	1	30		
	人間関係論	1	30			日常生活援助技術Ⅱ	1	30		
	仏教学概論	1	15			フィジカルアセスメント技術	1	30		
	生命倫理	1	15			診療に伴う援助技術Ⅰ	1	15		
	社会学	1	30			看護過程	1	30		
	英語Ⅰ	1	30			地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15		
	日本語表現	1	15			成人看護学概論	1	30		
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	15		老年看護学概論	1	15			
	解剖生理学Ⅱ	1	30		母性看護学概論	1	30			
	解剖生理学Ⅲ	1	30		精神看護学概論Ⅰ	1	15			
	解剖生理学Ⅳ	1	30		人間発達論	1	30			
	生化学	1	30		基礎看護学実習Ⅰ	1		45		
	臨床栄養学	1	15		基礎看護学実習Ⅱ	2		90		
	病理学	1	30							
	薬理学Ⅰ	1	30							
	微生物学	1	30							
	病態治療論Ⅰ	1	30							
	病態治療論Ⅱ	1	30							
	リハビリテーション概論	1	15							
	病態治療論演習	1	15							
	医療概論	1	15							
	公衆衛生学	1	15							
	健康管理論	1	15							
	1年次開講科目							科目数	単位数	時間
	基礎分野							10	10	210
専門基礎分野							16	16	375	
専門分野							16	17	495	
計							42	43	1080	

2年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数	
			講義	実習				講義	実習
基礎	論理学	1	30		専門分野	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	
	英語Ⅱ	1	30			母性看護学援助論Ⅱ	1	30	
専門基礎分野	薬理学Ⅱ	1	30			母性看護学援助論Ⅲ	1	15	
	病態治療論Ⅲ	1	30			精神看護学概論Ⅱ	1	30	
	病態治療論Ⅳ	1	30			精神看護学援助論Ⅰ	1	30	
	社会福祉	1	30			精神看護学援助論Ⅱ	1	30	
	関係法規	1	15			周術期看護	1	30	
						セルフマネジメントを支える看護	1	30	
専門分野	診療に伴う援助技術Ⅱ	1	30			がん看護	1	30	
	看護研究の基礎	1	15			成人看護学実習Ⅰ	2		90
	地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30		成人看護学実習Ⅱ	2		90	
	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30		老年看護学実習Ⅰ	2		90	
	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30		小児看護学実習Ⅰ	1		45	
	成人看護学援助論Ⅰ	1	30						
	成人看護学援助論Ⅱ	1	30						
	成人看護学援助論Ⅲ	1	30						
	老年看護学援助論Ⅰ	1	30						
	老年看護学援助論Ⅱ	1	30						
	小児看護学概論	1	30						
	小児看護学援助論Ⅰ	1	30						
小児看護学援助論Ⅱ	1	30							
					2年次開講科目				
					科目数	単位数	時間		
					基礎分野	2	2	60	
					専門基礎分野	5	5	135	
					専門分野	26	29	945	
					計	33	36	1140	

3年次カリキュラム

分野	科目名	単位数	時間数		分野	科目名	単位数	時間数	
			講義	実習				講義	実習
基礎	情報技術と看護	1	15		専門分野	地域・在宅看護論実習	2		90
	教育学	1	30			成人看護学実習Ⅲ	2		90
専門基礎	地域・在宅医療論	1	15			老年看護学実習Ⅱ	2		90
専門分野	看護研究	1	30			小児看護学実習Ⅱ	1		45
	家族看護論	1	15			母性看護学実習	2		90
	多職種連携	1	30			精神看護学実習	2		90
	看護管理	1	30			看護統合実習	2		90
	医療安全	1	30						
	災害看護と国際看護	1	30						
	看護統合演習	1	30						
					3年次開講科目				
					科目数	単位数	時間		
					基礎分野	2	2	45	
					専門基礎分野	1	1	15	
					専門分野	14	20	780	
					計	17	23	840	

教科外活動

	1年生	時間	2年生	時間	3年生	時間
4月	入学式	4				
	入学ガイダンス	16				
	積尊降誕会	1			実習ガイダンス	2
	新入生歓迎会(学友会)	2	新入生歓迎会(学友会)	2	新入生歓迎会(学友会)	2
	健康診断	4	健康診断	4	健康診断	4
	防火避難訓練	4	防火避難訓練	4	防火避難訓練	4
	ユニフォームサイズ合わせ	2				
5月						
6月	スポーツ交流会(学友会)	8	スポーツ交流会(学友会)	8		
7月						
8月						
9月	実習激励会(学友会)	2	実習激励会(学友会)	2		
			実習ガイダンス	2		
10月	決意式練習	4		4		
	決意式	4				
11月			低学年国家試験模擬試験	4		
12月			実習報告会	2	国試対策補講・模試	12
1月					国試対策補講・模試	12
2月	予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2
				6	卒業生交流会	2
3月					卒業式練習	2
	卒業式	2	卒業式	2	卒業式	2
通年	単位修得試験	43	単位修得試験	28	単位修得試験	5
小計		98		70		49
総計			217	時間		

授業科目と

講義概要

基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師（実務経験あり）
情報技術と看護	1	15	3年前期	合同	小杉 直美（大学教授） 齊藤 恭子（看護師） 前田 朝子（看護師）

科目のねらい

情報通信技術（ICT）の発展に伴い、保健医療福祉の分野にも様々なICTが導入されている現状にある。看護師は、患者に一番近い専門職者として、患者を観察することから得られる情報をもとに、適切なケアを展開するとともに、様々な職種と連携・協働を行っていることから情報リテラシーを習得することは重要なことである。しかし、その一方で情報の流出や情報がうまく伝わらないことによるトラブルや医療事故の危険性もある。

この授業では、ICTを活用するための基礎的知識と保健医療における情報の特徴、情報と倫理について理解を深めるとともに医療・看護情報に関係する倫理的課題について検討する。さらにICTを活用した看護の可能性を探る。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
6	情報と情報社会 (小杉)	1. 情報の定義と特徴 2. 社会と情報	講 義
4	保健医療における 情報技術 (齊藤)	1. 保健医療と情報 2. 看護と情報技術 3. 医療における情報システム ・電子カルテ ・地域医療福祉ネットワークと情報システム * 医療現場における実践的な取り組みと可能性	
4	医療情報と倫理 (前田 1, 2) (小杉 3 4)	1. 情報倫理と医療 2. 患者の権利と情報 3. 個人情報の保護 4. コンピュータリテラシーとセキュリティ	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院

参考文献：必要に応じて紹介します。

学生のみなさんへ：

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師 実務経験あり
教育学	1	30	3年前・後期	合同	杉浦 勉 (大学教育学部准教授)

科目のねらい

教育学の意義を確認するとともに、教育現場における今日的な課題について理解を深めることをねらいとする。また、それらの課題についてグループワークなどを通して、原因を探り、解決方法を考えたい。将来医療現場で働く受講者に、教育（チーム学校）と医療（医療チーム）が協力し合いながら、学校現場の諸問題を考える講義としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	教育の意義	1. 教育の意義	講 義
2	教育学と 学校教育の現状	2. 日本型学校教育	
2		3. 学校制度と連携	
2		4. チーム学校	
2		学校教育の課題と その対策	
2	6. 健やかな体		
2	7. 豊かな心		
2	8. いじめと多様性		
2	9. 発達障害		
2	10. 虐待・体罰		
2	11. 不登校と教育格差		
2	人の成長と発達	12. 子供の成長と支援	
2		13. 子供との関わり	
2		14. 人の成長と発達	
2	まとめ 単位修得試験	15. まとめ及び試験	

評価方法：講義に使用したワークシートの提出（14回×5点＝70点）及び論述試験（30点）

教科書：資料を毎回配布する。

参考文献：特にテキストは指定しないが、必要に応じて文献及び資料を紹介する

学生のみなさんへ：教育学を教育・研究する者としての基本的な姿勢は、学ぶ者と教える者の両者の立場の相互理解と協調である。授業を通して、お互いに理解し、授業の中でも実践的に深めたい。

專門基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講 師（実務経験あり）
地域・在宅医療論	1	15	3年前期	合同	富田 理哉(訪問診療医師) 本田 日奈子(訪問看護師) 古山 悦子 (訪問看護師) 山崎 健吾(薬剤師) 須賀 貴子(介護支援専門員)

科目のねらい

医学や科学技術の発展に伴い、入院治療を中心とする医療から住み慣れた環境で保健・医療・福祉サービスを受けられるようにシステムが変化してきている。その背景には少子高齢化社会の進展及び人口の偏在化による地域医療の脆弱化、家族および地域社会のサポート力の低下がある。そのため、診療や医療相談に対応することや、必要時には専門医・専門機関を紹介するなどの役割を担う「かかりつけ医」や在宅療養者と家族を支える訪問診療医師、訪問看護師など、地域における医療の専門職の役割が大きくなっている。

この授業では、地域・在宅医療活動の実践から、その特徴について理解することをねらいとし、地域・在宅看護論の基盤となる知識を深めたい。さらに、地域・在宅医療の課題を考える機会としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	プライマリケア（地域総合医療）とは （富田）	1. プライマリケアの定義 2. 地域医療におけるプライマリケア 3. 総合診療医と専門医	講 義
2	日本におけるプライマリケアの特徴と課題 （富田）	1. 日本型プライマリケアである開業医制度の特徴 2. 日本型プライマリケアの課題	
2	在宅医療の特徴 （富田）	1. 訪問診療の対象者 2. 専門医との連携 3. 地域医療構想と地域包括ケア	
2	在宅医療の診療過程 （富田）	1. 訪問診療過程の実際 2. 訪問診療における倫理的な課題	
2	地域医療における在宅医療の位置づけと連携 （山崎 須賀）	1. 地域医療における在宅医療の役割 2. 地域医療を担う職種・機関との連携	
2	訪問診療同行の看護師の役割 （本田）	1. 訪問診療同行の看護師の役割 2. 看護職間の連携、多職種との連携	
2	訪問診療同行の看護師の活動の実際 （古山）	1. 在宅療養者への緩和ケアと看取り 2. 家族への看護 3. 意思決定を支えるケア	
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：系統看護学講座 健康支援と社会保障制度〔1〕 総合医療論 医学書院

参考文献：参考文献：その都度紹介します

専門分野

基礎看護学

基礎看護学(11単位 300時間)

基礎看護学



科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師(実務経験あり)
看護研究	1	30	3年前・後期	クラス別	斉藤 恭子(看護師)、 福井堅一(図書司書) 演習(学内教員)

科目目的

看護実践を研究的プロセスでまとめ、看護についての理解を深め、研究の意義を実感するとともに研究的姿勢を養う。

科目目標

1. 自己の看護実践を振り返り、研究動機を明確にできる。
2. 計画的に研究に取り組むことができる。
3. 研究に必要な文献検索を行い、文献を批判的・科学的に読み、研究の価値を理解できる。
4. 研究の過程を体験し、論文としてまとめることができる。
5. 研究をとおして、自己の看護観を深められる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
8	看護研究のプロセス ＜講義＞ 看護研究のプロセス 研究計画書 研究論文の構成 (斉藤 6) ＜演習＞ 文献検索の方法 (福井 2)	1. 看護研究のプロセス 1) 研究における疑問 2) 研究方法 3) 研究デザイン等 2. 研究計画書 1) 研究プロセスにおける研究計画書の 位置づけと意義 2) 構成要素 3) 先行研究の概要 (1) 文献検索の方法 (2) 文献の整理と批判的リーディング 4. 研究論文の構成	講義 演習
2	看護研究における倫理的配慮 (斉藤)	1. 倫理的配慮 1) 医療分野における倫理規程 2) 看護研究における倫理原則	講義
20	研究の実際 (学内教員)	研究計画立案から発表までの一連の過程を体験する 1. 研究計画書の立案 2. データ収集 3. データ分析 4. 論文作成 5. 発表	演習

評価方法： レポート評価、研究発表時の評価

教科書： 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院

参考文献： 都度紹介

学生のみなさんへ： 積極的に看護研究に臨んでください。

地域・在宅

看護論

地域・在宅看護論(6単位 150時間)

地域・在宅看護論

地域・在宅看護概論 I
(1単位 15時間)

- 地域・在宅看護の概念
- 地域・在宅療養者と家族の支援
- 地域・在宅ケアを支える制度と社会資源
- 地域・在宅療養を支える看護

地域・在宅看護概論 II
(1単位 30時間)

- 訪問看護サービスの仕組みと提供
- 地域・在宅ケアのケアマネジメントと関係機関・関係職種間の連携
- 訪問看護技術

地域・在宅看護援助論 I
(1単位 30時間)

- 地域・在宅療養生活を支える基本的な技術
- 日常生活を支える看護技術
- 地域・在宅療養者の症状・状態別看護
- 療養を支える看護技術(医療ケア)

地域・在宅看護援助論 II
(1単位 30時間)

- 地域・在宅療養における医療機器・福祉用具
- 地域・在宅療養者の看取り
- 地域・在宅看護の展開

家族看護論
(1単位 15時間)

- 家族看護の基本
- 家族看護の対象理解
- 家族看護理論
- 家族看護の展開
- 家族看護の実践

多職種連携
(1単位 30時間)

- 多職種連携の基本
- 多職種の専門分化
- 多職種連携の意義
- 各環境における多職種連携
- 各職種の地域・在宅での役割
- 多職種連携の実際

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
家族看護論	2	15	3年 前期	クラス別	小宮山 政枝(看護師)

科目目的

家族のエンパワーメントを理解し、家族の力を発揮できるようなケアを実践する能力を身に付ける。

科目目標

1. 家族看護の基本と対象の理解ができる。
2. 家族看護を支える理論について理解できる。
3. それぞれの状況下にある家族への介入方法について理解できる。
4. 家族看護の事例を通し、家族看護の実践について考えることができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	家族看護の基本	1. 家族看護とは 1) 家族看護の特徴と理念 2) 家族看護の実践の場面	講義
2	家族看護の対象理解	1. 家族看護の対象 1) 家族とは 2) 家族の構造 3) 家族機能 4) 現代の家族とその課題	講義
2	家族看護理論	1. 家族看護を支える理論と介入法 1) 家族を理解するための理論 2) 家族の変化を把握するための理論 3) 家族に変化をもたらすための介入	講義
2	家族看護の展開	1. 家族看護展開の方法 1) 家族看護過程とは 2) 家族看護の実践 3) 様々な家族アセスメントモデル	講義
6	家族看護の実践	1. 事例に基づく家族看護学の実践 1) 急性期患者の家族看護 2) 終末期患者の家族看護 3) 高齢者・認知症の患者の家族看護 など	講義 グループ ワーク
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

参考文献：その都度紹介します

科目目的

地域包括ケアシステムにおける他の職種との連携をはじめとする多職種協働を実践できる能力を身に付ける。

科目目標

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
多職種連携	1	30	3年 前期	クラス別	小宮山政枝(看護師)新居弘堯(理学療法士) 飯泉智子(言語聴覚士) 千葉利代(歯科衛生士) 池森康裕(介護福祉士)芥川豊(作業療法士)

科目目的

地域包括ケアシステムにおける他の職種との連携をはじめとする多職種協働を実践できる能力を身に付ける。

看護目標

1. 多職種連携の意義と必要性が理解できる。
2. 各場所による職種の役割と実践方法が理解できる。
3. 多職種連携の実際を学ぶことができる。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4	多職種連携の基本 (小宮山)	1. 多職種連携とは 1) 多職種連携とその教育の必要性 2) 多職種連携の形態 3) 多職種連携の基本的理念	講義
2	多職種の専門分化 (小宮山)	1 医療職の専門分化 1) 医療専門職とは 2) 医療専門職の分化史 3) 医療専門職の分化と連携	講義
2	多職種連携の意義 (小宮山)	1. 多職種連携の意義 2. 多職種連携の課題 3. 現代医学の疾患傾向の変化 4. パターナリズムと患者の権利	講義
4	各環境における 多職種連携 (小宮山)	1. 地域・在宅医療における連携 1) 地域・在宅医療における多職種連携の必要性 2) 地域・在宅医療において多職種連携が必要な局面 2. 病院と地域における連携 1) 病院・地域連携における多職種連携の必要性 2) 病院・地域連携において多職種連携が必要な局面	講義 DVD 学習 グループワーク
1 2	各職種の地域・在宅 での役割 理学療法士 (新居) 作業療法士 (芥川) 言語聴覚士 (飯泉) 歯科医師・衛生士 (千葉) 介護福祉士・ 介護ヘルパー (池森)	1. 理学療法士の連携 1) 理学療法士の業務・役割	講義
		2. 作業療法士の連携 1) 作業療法士の業務・役割	講義
		3. 言語聴覚士の連携 1) 言語聴覚士の業務・役割	講義
		4. 歯科医師・歯科衛生士の連携 1) 歯科の業務・役割	講義
		5. 介護福祉士・介護ヘルパーの連携 1) 介護福祉士・介護ヘルパーの業務・役割	講義
6	多職種連携の実際 (小宮山)	1. 多職種連携の実際 1) 事例検討：多職種連携の展開	講義 グループワーク
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験 参考文献：その都度紹介します

看護の

統合と実践

看護の統合と実践 (4単位 120時間)

看護の統合と実践

看護管理
(1単位30時間)

- 医療・看護の動向と政策、看護管理の概要
- 看護ケアマネージメントの理論と実践
- 看護サービスマネジメントの理論と実践
- リーダーシップの理論と自己のリーダーシップスタイル
- キャリアデザインの理論と、自己のキャリアデザイン
- 新人看護師として職場適応するために必要な知識とタイムマネジメント
- 看護倫理再考、組織の一員としての役割

医療安全
(1単位30時間)

- 医療安全を学ぶことの意義、事故防止の考え方
- 診療の補助の事故防止
- 療養上の世話の事故防止
- 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因
- 医療安全とコミュニケーション
- 看護師の労務安全衛生上の事故防止
- 組織的な安全管理体制への取り組み
- 医療安全対策の国内外の潮流
- 職業感染予防の実際

災害看護と国際看護
(1単位30時間)

- 看護とグローバル化した社会
- 求められる災害看護と国際看護
- 国内外の災害
- 災害看護の歩み
- 災害看護と法律
- 地震災害看護の展開
- 災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護
- 被災者特性に応じた災害看護の展開
- 災害時のこころのケア
- 国際看護
- 国際協力の実例
- 災害看護の実際1, 2

看護統合演習
(1単位30時間)

- オリエンテーション
- 看護の展開1
- 看護の展開2
- プレゼンテーションの実施と参加

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師（実務経験あり）
看護管理	1	30	3年前・後期	クラス別	前田 朝子(看護師)

科目目的

より良い看護を提供するために必要な組織やシステム、看護サービスに関する知識、看護専門職が組織の一員として果たすべき役割、またその役割を発揮するための諸概念について学ぶ。

科目目標

1. 看護管理に大きく影響を与える医療・看護の動向と政策について説明できる。
2. 看護ケアマネジメントの理論と実践について説明できる。
3. 看護サービスマネジメントの理論と実践について説明できる。
4. リーダーシップの諸理論を学び、自己のリーダーシップスタイルについて考え、記述できる。
5. キャリアデザインの諸理論を学び、自己のキャリアデザインについて考え、記述できる。
6. 新人看護師として職場適応するために必要な諸知識と、組織における役割について説明できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	医療・看護の動向と政策、看護管理の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今日の医療・看護の動向 2. 医療制度と政策 3. 看護管理の目的 4. 看護マネジメントの概念 	講 義
4	看護ケアマネジメントの理論と実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. ケアマネジメントプロセス 2. 医療安全管理、感染管理 3. チーム医療、多職種連携 4. 地域とつなぐ連携 5. 看護基準と看護手順 	講 義
6	看護サービスマネジメントの理論と実践	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護組織論 2. 看護ケア提供方式 3. 人的資源管理・労務管理 4. 物品の管理 5. 情報の管理 6. 経営への参画 7. 看護サービスの質の評価 	講 義
4	リーダーシップの理論と自己のリーダーシップスタイル	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップの諸理論 2. 動機づけ 3. 変革の時代に求められるリーダーシップ 4. サーバントリーダーシップ 5. シェアドリーダーシップ 	講 義 演 習
4	キャリアデザインの理論と、自己のキャリアデザイン	<ol style="list-style-type: none"> 1. キャリアデザインの諸理論 2. 個人の視点から考えるキャリア発達 3. 組織の視点から考えるキャリア開発、目標管理 	講 義 演 習

4	新人看護師として職場 適応するために必要な 知識とタイムマネジメ ント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の特徴と新人看護師の適応 2. ストレスマネジメント 3. タイムマネジメント 4. 多重課題と優先順位 	講 義 演 習
6	看護倫理再考、 組織の一員としての役 割	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理 2. 組織文化と組織倫理 3. 組織における係の役割と活動 4. 看護の継続性と責任 	講 義 演 習

評価方法 : 各回のミニレポート (15 回×2 点=30 点)、2つの課題レポート (2×20 点=40 点)、
小テスト (30 点)

教科書 : 「統合分野 看護管理 看護の統合と実践 I」医学書院
「看護職の倫理綱領」日本看護協会

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
医療安全	1	30	3年 後期	クラス別	森本 千恵子（看護師） 小池ひとみ（看護師）

科目目的

医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、間違いや不適切行為が、患者にどれほど重大な結果をもたらすのかを理解する。

科目目標

1. 医療看護におけるリスクマネジメントについて理解する。
2. 看護職の責任と法的責任について理解する。
3. 看護・医療事故予防と看護実践について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全を学ぶことの意義	1. 人は何故間違いをおかすのか 2. 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 3. 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 4. 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義
	事故防止の考え方	1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 3. 看護事故防止の考え方	講義
4	診療の補助の事故防止	1. 患者に投与する業務における事故防止 1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器での事故防止 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服与薬業務と事故防止 6) 経管栄養(注入)業務と事故防止 2. 継続中に危険な医療行為の観察・管理における事故防止 1) チューブ管理と事故防止	講義
4	療養上の世話の事故防止	1. 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 1) 転倒・転落事故防止 2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3) 異食事故防止 4) 入浴中の事故防止	講義
2	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域を超えて共通する患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義

時 間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全とコミュニケーション	1. 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2. 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4. 自己の未然防止上重要なコミュニケーション	講 義
4	看護師の労務安全衛生上の事故防止	1. 職業感染 2. 抗がん剤の暴露防止 3. 放射線被爆 4. ラテックスアレルギー 5. 院内暴力	講 義
4	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての医療安全対策 医療安全管理のための職員研修（KYT など） 2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チーム及び組織	講 義 演 習
2	医療安全対策の国内外の潮流	1. 我が国の医療安全対策の潮流 2. 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3. 産業界から学ぶヒューマンファクターズの取入れ	講 義
6 (小池)	職業感染予防の実際	1. 感染防止技術 1) 感染の 3 要素 2) 感染成立の輪 3) 3 つの感染経路 4) 医療関連感染対策の基本「基本の木」 ①手指衛生(手洗い、手指消毒) ②個人防護具 (PPE) の選択と着脱方法とタイミング 2. 職業感染 感染経路とその予防策 1) 接触感染 ①血液・体液 ②排泄物 ③ウイルス・細菌 ④ダニ 2) 飛沫感染 ①インフルエンザ ②コロナウイルス 3) 空気感染 ①結核 ②麻疹・水痘	講 義 演 習
1	単位修得試験		

評価方法：筆記試験

教科書：看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院
 看護が見える1・2 MEDIC MEDIA

参考文献：必要時、資料を配布します。

学生のみなさんへ：日常の実習で遭遇するまた、引き起こしやすい事故事例を皆さんとディスカッションしながら進めます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
災害看護と国際看護	1	30	3年 後期	クラス別	島津世子(看護師) 稲葉 文(看護師) 大野夏代(看護学部教授) 鈴木聡子(理学療法士) 王子総合病院 (DMAT) (看護師)

科目目的

災害が暮らしと密着に関係しながら、人の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。また、災害時における看護の役割を果たすために必要な知識と看護活動について学ぶ。

グローバル化の中に生きる現代の看護職者として国際看護を学ぶ意義を理解する。

科目目標

1. 災害及び災害看護に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の社会の仕組みと対応について理解する。
3. 災害が人々の生命や健康障害に及ぼす影響を理解する。
4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。
5. 世界の国々に関心を持ち、国際協力開発を進めることが、地球全体の減災につながることを理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4 (稲葉)	看護とグローバル化した社会	1. グローバル化の影響 2. 看護職者に求められるグローバルな視点	講義
	求められる災害看護と国際看護	1. 災害看護・国際看護の原則 1) 看護行為の判断の基盤になるもの 2) 人道支援の起源と思想 3) 人道支援の原則	講義
2 (島)	国内外の災害	1. 災害看護と国際看護を学ぶ意義 1) 災害被害の国際化 2) 近年の国内外の災害と災害の種類 3) 災害看護の役割 4) 国際的な広がりをもつ災害看護	講義
2 (島)	災害看護の歩み	1. 災害看護の歩みと看護活動 2. 災害医療と災害看護の基礎知識 3. 災害看護の特徴	講義
	災害看護と法律	1. 被災者救助法と関係法規 2. 救援体制と提供されるサービス 3. 救援活動の現状と課題	
2 (島)	地震災害看護の展開	1. 発災直後から出動までの看護 2. 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 1) 超急性期・急性期の医療のニーズ 2) 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 ①トリアージ (STAT法・PAT法) ②治療 (観察と応急処置) ③搬送	講義 DVD 演習
2 (島)	災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護	1. 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践 1) 急性期・亜急性期の看護 2) 慢性期・復興期の看護 3) 静穏期の看護 2. 要配慮者への看護	講義

	単 元	学 習 内 容	学習方法
2 (島)	被災者特性に応じた 災害看護の展開	1. 子どもに対する災害看護 2. 妊産婦に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 障害者に対する災害看護 5. 精神障害者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 7. 原子力災害による被災者への看護 8. 残留外国人に対する災害看護	講 義
2 (島)	災害時のこころのケア	1. こころのケア総論 2. 災害時のストレスとストレス反応 3. 被災者のこころのケア 4. 救護者のこころのケア	講 義
4 (大野)	国際看護	1. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 2. 国際看護とは 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバルヘルス 3) 国際協力の仕組み 4) 文化を考慮した看護 5) 国際看護活動の展開過程 6) 開発協力と看護 7) 国際救助と看護 8) 21世紀の国際協力の課題	講 義
2 (鈴木)	国際協力の実際	1. 開発途上国における国際救援活動の実際	講 義
4 (王子総 合病院)	災害看護の実際 1 (DMAT)	1. 災害看護の基本的考え方と看護の役割 2. 災害関係諸機関との連携 3. 災害各期における看護活動 4. 避難所における健康と生活支援 5. 保健衛生管理	講 義 演 習
4 (島)	災害看護の実際 2	1. 災害現場での応急処置・運搬法 2. トリアージの実際	演 習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践【3】災害看護学・国際看護学

医学書院

参考文献 : 必要時、資料を配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
看護統合演習	1	30	3年 後期	クラス別	吉野 悦子（看護師）

科目目的

1. 紙面事例に応じた看護実践ができる
2. グループメンバー全員による参加型実践とする

科目目標

1. 4事例の紙面事例に対して看護を考えることができる
2. 看護計画に基づいた看護(安全、安楽、自立を促す援助)が実践できる
3. 他のメンバーに対して、紙面事例の看護過程の展開と看護をプレゼンテーションし、質疑に答えることができる

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	オリエンテーション	1. 目的、目標 2. 展開 3. 方法 4. 評価 5. グループメンバー発表	全体講義
8	看護の展開1	1. 疾患の理解 2. 事例に対するアセスメント 3. 看護計画の立案	個人ワーク グループワーク
12	看護の展開2	1. 看護計画に基づく実技演習 1) 共通技術（コミュニケーション、教育・指導技術、記録・報告、感染予防） 2) 日常生活行動援助技術 3) 観察・アセスメント技術 4) 診療に伴う援助技術 2. 看護計画の修正	グループワーク グループ演習
8	プレゼンテーションの実施と参加	1. プレゼンテーションの実施 1) 実技発表 2. 他メンバーのプレゼンテーションの参加	演習 個人ワーク

評価方法：看護の展開の内容・プレゼンテーション内容・振り返りレポートの提出にて評価

教科書：各看護学で学習した看護技術の教科書全般

参考文献：必要時、資料を配布

臨地実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
地域・在宅看護論実習	2	90	3年 前期	小宮山 政枝(看護師)

科目目的

地域で暮らす人々、療養する人々とその家族の課題を生活の課題として理解し、その人々が地域や在宅で健康の維持・増進が図られるよう援助できる能力を養う。

科目目標

1. 地域で療養している人々とその家族の療養上の課題を理解できる。
2. 地域で療養している人々が在宅で健康の維持・増進を図り、在宅療養を継続するための看護の方法が理解できる。
3. 地域で生活する人々の健康と安全な暮らしを支援する多職種の役割・機能を理解し、地域における看護の在り方を理解できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割と様々な職種の役割を理解し、他職種と協働することの必要性を理解できる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
【訪問看護実習】 1. 対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴 2. 生活上の課題の把握と看護技術の提供方法の実際 3. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護者の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 医療施設内看護と在宅看護の違い	訪問看護 実習
【デイケア実習】 1. 地域で施設を利用している人々とその家族のニーズ 2. 地域における保健・医療・福祉サービスの実際 3. 地域で人々の生活を支える職種間の相互連携 4. 地域における看護の役割	デイケア 実習
【その他】 1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
成人看護学実習Ⅲ	2	90	3年 前期	千葉 祐子(看護師)

科目目的

健康障害を持つ成人各期の特徴を理解し、あらゆる健康レベルにある対象者とその家族に必要な看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 成人期にある対象者を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 健康障害をもつ対象者とその家族に必要な看護を計画・実施・評価できる。
3. 成人期の特徴を踏まえ、経過別・治療・処置別、症状別看護を実践できる。
4. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、生命の維持、苦痛の緩和、回復向けの援助を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種との協働の必要性が理解できる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 成人期の身体的・精神的・社会的特徴 2. 成人期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 対象者に必要な看護援助の具体化 5. 基本的な看護援助の適応と工夫 6. 実施した看護の評価と修正 7. よい人間関係を築くためのコミュニケーション 8. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 9. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を認識し、それらを解決するための方法	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
老年看護学実習Ⅱ	2	90	3年 前期	中村 園美(看護師)

科目目的

老年期の特徴を理解し、高齢者の生命と人格を尊重する態度を養い、保健・医療・福祉の連携を理解し、対象者とその家族がよりよい生活を送るための援助を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 老年期の特徴を踏まえ、経過別、治療・処置別、症状別の看護を実践できる。
2. 各経過別にある対象者の特徴を理解し、可能な限りの自立に向けた看護を安全・安楽に考慮し実践できる。
3. 対象者の意思を尊重する態度を養い、必要な援助を考えることができる。
4. 主体的に学習に臨み、自己の知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の統合的理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の理解 3. V. ヘンダーソンの看護理論に基づいたアセスメント 4. 加齢変化・健康障害が及ぼす生活への影響(課題)の明確化 5. 対象者のもてる力に着目した目標設定 6. 対象者の可能な限りの自立に向けた看護援助の具体化・実施 7. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 8. 実施した看護の評価と修正 9. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 10. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 11. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 12. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的 13. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 14. 他職種の専門性の理解と連携の必要性の理解 15. カンファレンスへの主体的な参加 16. 看護学生としての倫理的行動の実践 17. 自己の課題を明らかにし、それらを解決するための方法 	病棟実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
小児看護学実習Ⅱ	1	45	3年6月～	斉藤 恭子(看護師)

科目目的

健康障害をもつ子ども（患児）の成長・発達を理解し、その子どもおよび家族に応じた看護を実践できる能力を養う

科目目標

1. 患児の成長・発達を理解し、日常生活を理解できる
2. 健康障害の特徴を踏まえた経過別、治療(検査・処置)別、症状別看護の実際を理解できる
3. 健康障害、入院・通院が子どもの成長・発達を妨げないための関わりを理解することができる
4. 患児をもつ家族の不安や疲労を考慮した関わりができる
5. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる

実習内容と方法

実習内容	方法
<<病棟実習>> 1. 患児の成長・発達が理解できる 2. 日常生活の世話が理解できる 3. 病態を理解できる 4. 必要な看護を考え、実施できる 5. 成長・発達の妨げを最小限に努めることができる 6. 家族に対して、不安や疲労が軽減できる <<外来実習>> 1. 外来における看護の役割が理解できる 2. 患児の成長・発達が理解できる 3. 病態を理解できる 4. 必要な看護を考え、実施できる 5. 家族に対して、不安や疲労が軽減できる 6. 看護者としての姿勢・態度を身につけ、積極的に自己の向上に努めることができる	病棟実習 外来実習

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
母性看護学実習	2	90	3年 前期	島 津世子(助産師・看護師)

科目目的

周産期にある女性とその家族、地域における母子の保健活動を理解し、対象に応じた看護を実践できる能力を養う。

科目目標

1. 正常な妊娠経過を理解し、妊娠各期に必要な保健指導が理解できる。
2. 正常な分娩経過を理解し、分娩各期に必要な援助を考えることができる。
3. 正常な産褥経過を理解し、個々に応じた援助ができる。
4. 新生児の生理的な特徴を理解し、母体外生活に適応するための援助ができる。
5. 妊産褥婦を支える家族の心理を理解し、家族の果たす役割について考えることができる。
6. 看護職として母親の母性意識を高めることへの役割を理解できる。
7. 地域における母子の保健活動を通して母子とその家族がより健康に過ごすための援助を学ぶ。
8. 看護職としての姿勢・態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠経過に応じた身体的変化、心理的变化、社会的変化 2. 妊娠各期に必要な保健指導 3. 分娩経過に応じた必要な援助の理解 4. 産褥経過に応じた身体的変化、心理的变化、社会的変化 5. 褥婦とその家族を含めた観察とアセスメント 6. 産褥経過に応じた援助計画と基本的援助 7. 新生児の生理的变化と健やかに成長発達するための援助 8. 妊産褥婦の心理・社会的特徴を踏まえ、妊産褥婦とその家族とのコミュニケーションと役割の理解 9. 地域における母子の保健活動の理解 10. カンファレンスへの主体的な参加 11. 看護学生としての倫理的行動の実践 12. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力 	<p>病院実習</p> <p>助産院実習</p>

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
精神看護学実習	2	90	3年 前期	千葉 弘恵(看護師)

科目目的

メンタルヘル스에 장애를を抱える 대상자의 특징과 생활자としての側面を理解し、地域で生活し続けるための援助を考える。

科目目標

1. メンタルヘル스에 장애를を抱え入院している対象者を理解する。
2. 対象者の生活とセルフケア向上の方法を理解し実践できる。
3. 対象者が地域で生活し続けるためのセルフケア能力とその援助を学び、必要な知識と社会資源を考えることができる。
4. 保健・医療・福祉チームの専門性を知り、看護の役割として何が 필요한のか考えることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
<p>病棟では、対象理解を中心とした援助を学ぶ。</p> <p>対象理解は、成育歴からの生活史、発症となったライフイベント、そして現在のセルフケア能力と退院後を見据えたセルフケア能力を向上させるための支援を学ぶ。</p> <p>病棟における看護計画を参考に看護過程を帰納的に理解する。</p>	病棟実習
<p>就労継続支援施設では、地域で回復するあるいは、再発を予防し続けている対象者のセルフケア能力と支援者との関係を学ぶ。</p>	就労継続支援施設実習

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
看護統合実習	2	90	3年後期	吉野 悦子(看護師)

科目目的

医療チームにおける看護師の役割を理解し、専門職者として継続して生涯学習する姿勢を身につける

科目目標

1. 二人の患者を受け持ち、対象の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践ができる
2. リーダー・メンバー看護師の管理的役割を理解できる
3. 継続看護の必要性を再認識し、実際を理解できる
4. 多職種連携の必要性を理解できる
5. 自己の看護観を明らかにできる

学習内容と方法

学 習 内 容	学 習 方 法
1. 二人の患者を受け持ち、対象の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践する 2. 1日リーダー看護師に同行する 3. 1日メンバー看護師に同行する 4. 退院予定の患者に対して地域連携室または病棟での退院調整場面、あるいは入院中の患者に対しての多職種カンファレンスに参加・見学する 5. 自己の看護観をまとめレポートする	臨地実習 学内実習

評価方法 : 実習評価 レポート

教科書 : 教科書全般

ナイチンゲール「看護の覚書」 ヘンダーソン「看護の基本となるもの」

複数教員が
担当する科目
の配点表

複数の教員が担当する科目の配点表

・単位認定は学則第11条において必要事項を定める

・同一科目で複数の講師の場合、合計で100点満点とし、1回の単位修得認定試験で実施する。

		科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年	
基礎分野	科学的思考の基盤	看護物理学	森山 隆則	15	15	100	1	
		論理学	林寺 正俊	30	30	100	2	
		情報処理演習	平間 嘉	15	15	100	1	
		情報技術と看護	小杉 直美	15	10	60	3	
			前田 朝子		2	10		
			斉藤 恭子		4	30		
	法学入門	小野田 充宏	15	15	100	1		
	人間と生活の理解	心理学	鈴木 珠世	30	30	100	1	
		人間関係論	鈴木 珠世	30	30	100	1	
		仏教学概論	谷川 靖郎	15	15	100	1	
		生命倫理	谷川 靖郎	15	15	100	1	
		社会学	鄭 斗鎬	30	30	100	1	
		英語Ⅰ	鳴海 恭子	30	30	100	1	
		英語Ⅱ	鳴海 恭子	30	30	100	2	
		日本語表現	小杉 直美	15	15	100	1	
		教育学	杉浦 勉	30	30	100	3	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	渡辺 潤	15	15	100	1	
		解剖生理学Ⅱ	井上 貴一郎	30	30	100	1	
		解剖生理学Ⅲ	東城 庸介	30	30	100	1	
		解剖生理学Ⅳ	東城 庸介	30	30	100	1	
		生化学	今川 敏明	30	30	100	1	
		臨床栄養学	鳴田 祐子	15	15	100	1	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	森山 隆則	30	30	100	1	
			薬理学Ⅰ	宇野 健一	30	30	100	1
			薬理学Ⅱ	宇野 健一	30	30	100	2
		微生物学	澤田 幸治	30	30	100	1	
			病態治療論Ⅰ	運 田崎 悌史	30	10	30	1
				循 加藤 法喜		10	30	
				呼 五十嵐 毅		6	25	
		血 石立 尚路		4		15		
		病態治療論Ⅱ	消 蔵前 太郎	30	12	40	1	
			肺 猪又 崇志		4	15		
			内 猪又 崇志		4	15		
			腎 河田 哲也		10	30		
		病態治療論Ⅲ	外 鎌田 理	30	6	30	2	
			女 金上 宣夫		10	35		
			救 岩見沢市消防署		4	—		
			放 鈴木 祐介		10	35		

専 門 基 礎 分 野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態治療論Ⅳ	眼	加藤 雅史	30	6	20	2
			耳	藤原 美秋		4	15	
			歯	千徳 敏克		4	15	
			皮	伊藤 理恵		6	20	
			脳	伊藤 和則		4	10	
			脳	石崎 努		6	20	
	リハビリテーション概論	田崎 悌史	15	5	25	1		
		鈴木 光広		10	75			
	病態治療論演習	高橋 久江	15	15	100	1		
	医療概論	澤田 幸治	15	15	100	1		
	地域・在宅医療論	富田 理哉	15	8	70	3		
		山崎 健吾		1	—			
		須賀 貴子		1	—			
		本田 日奈子		2	15			
		古山 悦子		2	15			
	社会福祉	澤 伊三男	30	30	100	2		
	関係法規	小野田 充宏	15	15	100	2		
	公衆衛生学	都築 俊文	15	15	100	1		
健康管理論	明野 聖子	15	5	30	1			
	池森 康裕		4	30				
	山本 真弓		4	30				
	畚谷 千春		2	10				
専 門 分 野	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	斉藤 恭子	30	30	100	1	
		看護学概論Ⅱ	斉藤 恭子	30	30	100	1	
		共通基本技術	朝倉 あつ子	30	14	50	1	
			斉藤 恭子		16	50		
		日常生活援助技術Ⅰ	工藤 美恵子	30	26	80	1	
			千葉 利代		4	20		
		日常生活援助技術Ⅱ	工藤美恵子	30	20	65	1	
			斉藤 恭子		10	35		
		フィジカルアセスメント技術	中村 恵子	30	30	100	1	
		診療に伴う援助技術Ⅰ	斉藤 恭子	15	12	80	1	
			真下 泰		4	20		
		診療に伴う援助技術Ⅱ	工藤 美恵子	30	30	100	2	
		看護過程	斉藤 恭子	30	30	100	1	
		看護研究の基礎	斉藤 恭子	15	11	100	2	
		看護研究	斉藤 恭子	30	30	100	3	
		地域・在宅看護概論Ⅰ	小宮山 政枝	15	15	100	1	
		地域・在宅看護概論Ⅱ	柴田 ひとみ	30	30	100	2	
		地域・在宅看護論援助論	小宮山 政枝	30	10	30	2	
三宅 由佳	4		—					
三浦 佐夜	2		—					
田中 幸子	4		70					
成田 えりか	4		—					
下道 寿恵	6		—					
在宅看護援助論Ⅱ	小宮山 政枝	30	30	100	2			
家族看護論	小宮山 政枝	15	15	100	3			
多職種連携	小宮山 政枝	30	18	100	3			
	池森 康裕		4	—				
	芥川 豊		2	—				
	新居 弘堯		2	—				
	飯泉 智子		2	—				
	千葉 利代		2	—				

専門分野	成人看護学	成人看護学概論	千葉 祐子	30	30	100	1	
		成人看護学援助論 I	千葉 祐子	30	20	60	2	
			渡辺 静香		10	40		
		成人看護学援助論 II	循 消 運 呼他	阿部 裕矢	30	4	15	2
				佐藤 恵美		4	15	
	竹内 明美			4		15		
	千葉 祐子			18		55		
	成人看護学援助論 III		千葉 祐子	30	30	100	2	
	老年看護学	老年看護学概論	沼田 環	15	8	50	1	
			朝倉 あつ子		7	50		
		老年看護学援助論 I	若林 崇雄	30	4	20	2	
			山下いづみ		6	20		
			小原 菜穂		8	20		
			疋田 健		6	20		
	老年看護学援助論 II	朝倉 あつ子	30	6	20	2		
		緑川 弥生		10	30			
	小児看護学	小児看護学概論	中村 園美	30	20	70	2	
			花井 未帆		10	30		
		小児看護学援助論 I	岡田 千佐子	30	20	70	2	
			佐藤 俊哉		30	30		100
		小児看護学援助論 II	佐藤 真紀子	30	16	50	2	
	岡田 千佐子		6		20			
	花井 未帆		8		30			
	母性看護学	母性看護学概論	小林 和子	30	22	70	1	
			齊藤 麻木		8	30		
		母性看護学援助論 I	齊藤 麻木	30	30	100	2	
		母性看護学援助論 II	齊藤 麻木	30	30	100	2	
	母性看護学援助論 III	小林 和子	15	15	100	2		
	精神看護学	精神看護学概論 I	千葉 弘恵	15	15	100	1	
		精神看護学概論 II	栗内 崇	30	30	100	2	
		精神看護学援助論 I	清水 祐輔	30	4	70	2	
			北村 一紘		6			
吉田 隼輔			6					
縄手 球湖			4					
精神看護学方法論 II	鈴木 ゆき	30	10	30	2			
	齋藤 伸		8	30				
看護の統合と実践	看護管理	千葉 弘恵	30	22	70	3		
		前田 朝子		30	30		100	
	医療安全	森本 千恵子	30	24	80	3		
		小池 ひとみ		6	20			
	災害看護と国際看護	島 津世子	30	16	60	3		
		稲葉 文		4	20			
		大野 夏代		4	20			
鈴木 聡子		2		—				
看護統合演習	王子総合病院(DMAT)		4	—				
		吉野 悦子	30	30	100	3		

専 門 分 野	領 域 横 断 科 目	人間発達論	岡田 千佐子	30	10	30	1		
			高橋 久江		12	40			
			船橋 久美子		8	30			
		周術期看護	千葉 祐子	30	16	50	2		
			畑江 郁子		6	20			
			山下 いずみ		8	30			
		セルフマネジメントを支える看護	千葉 祐子	30	14	50	2		
			畑江 郁子		6	20			
			中村 園美		10	30			
		がん看護	吉田 尚子	30	4	10	2		
			北岡 康平		2	10			
			上岡 晃		16	50			
			畑江 郁子		8	30			

旧カリキュラム

(2021年度以前の入学生)

教育目的

仏教的人間観を基盤として、社会における看護の役割を認識し、科学的思考による学習体験をとおして看護実践能力を修得し、人間の健康と幸福に貢献できる人材を育成する。

教育目標

1. 自らを含めて豊かな人間性と、生命の尊厳を認識し統合的に対象を理解する能力を養う。
2. 様々な場で生活を営んでいる人々の生活及び健康の段階を理解し、対象に応じた科学的根拠に基づく看護実践能力を養う。
3. 変化する社会の中で保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し、看護者が担うべき役割を認識してその責務を果たすことができる能力を養う。
4. 専門職としての職業観を高め、主体的に学び続ける基礎的能力を養う。

目指す看護師像

1. 豊かな人間性を持ち、生命の尊厳性を認識できている。
2. 看護師として共感的態度及び倫理観をもって、人を受容できる優しく豊かな人間性が身につく。
3. 職業意識が高まり、看護師として誇りと責任が持て、安全な看護が提供できる基礎が育っている。
4. 自分の意見を表現することを大切にし、相手の意見を聞きとれ学び合う仲間作りができている。
5. 保健・医療・福祉と連携・協働し専門職として臨床実践する基礎力が身に付いている。

学年別到達目標

教育目的

仏教的人間観を基調として社会における看護の役割を認識し、科学的思考による学習体験を通して、看護実践能力を修得し、人間の健康と幸福に貢献できる人材を育成する。

教育目標	1年次到達目標	2年次到達目標	3年次到達目標
自らを含めて豊かな人間性と生命の尊厳を認識し統合的に対象を理解する能力を養う	<p>対象である人間を、成長発達段階から捉えることができる</p> <p>対象を身体的・精神的・社会的側面から理解する重要性がわかる</p> <p>人間・生命の尊厳について考えることができる</p> <p>他者との関係から自己理解をすることができる</p> <p>看護倫理規定、患者の権利を理解できる</p>	<p>対象を身体的・精神的・社会的側面から理解することができる</p> <p>病態を理解し、健康障害のある対象を理解できる</p> <p>人間・生命を尊厳する姿勢を持つことができる</p> <p>自己理解し、他者を尊重して人間関係を作ることができる</p> <p>コミュニケーション技術を活用し、対象との人間関係を構築できる</p>	<p>対象を統合的に捉え、看護上の問題点を挙げることができる</p> <p>臨地実習を通して生命・死に対する考えや倫理観を表現できる（自分の言葉で）</p> <p>人間・生命を尊厳する姿勢を持つことができる</p> <p>自己理解し、他者を尊重して、人間関係を深めることができる</p>
様々な場で生活を営んでいる人々の生活及び健康の段階を理解し、対象に応じた科学的根拠に基づく看護実践能力を養う	<p>看護の主要概念を考慮することができる</p> <p>健康及び健康障害について理解できる</p> <p>看護の役割・機能について理解できる</p> <p>科学的思考で問題解決する方法を考慮することができる</p> <p>日常生活援助に必要な知識・技術・態度を習得できる</p> <p>援助技術を実施するための看護過程が展開できる</p> <p>健康障害を持つ人の病態生理が理解できる</p> <p>基本的な生活習慣を整え、良い人間関係を築くことができる</p>	<p>看護の主要概念を理解することができる</p> <p>人間のライフサイクルについて理解し、発達段階に応じた各期の特徴が理解できる</p> <p>健康障害に応じて日常生活の援助を実施できる</p> <p>健康障害に対する治療・処置の対応が理解できる</p> <p>対象に治療・処置別、主要症状別看護を実施できる</p> <p>事例を通して、看護理論に沿った看護過程の展開ができる</p>	<p>あらゆる健康の段階にある対象を統合的に捉え、日常生活援助が実践できる</p> <p>臨地実習を通して生命・死に対する考えや倫理観を表現できる（自分の言葉で）</p> <p>自己理解し、他者を尊重して、人間関係を深めることができる</p> <p>対象を尊重し、対象の気持ちに共感できる感性を培うことができる</p>

教育目標	1年次到達目標	2年次到達目標	3年次到達目標
<p>変化する社会の中で保健・医療・福祉チームの一員として連携・協働し、看護者が担うべき役割を認識して、その責務を果たすことができる能力を養う</p>	<p>保健・医療・福祉チームの役割・機能を理解できる</p>	<p>チームの一員として保健・医療・福祉を取り巻く社会の動向に関心を持つことができる</p>	<p>保健・医療・福祉チームの責務と業務内容が理解でき、看護チームの一員として行動できる</p>
<p>専門職としての職業観を高め、主体的に学び続ける基礎的能力を養う</p>	<p>主体的に学習・研究することの必要性がわかる</p> <p>物事に関心を持ち、何事にも積極的に関わることができる</p>	<p>資源を活用し主体的・継続的に学習・研究に取り組むことができる</p> <p>問題意識を持って、何事にも論理的思考を基に解決できる</p>	<p>継続して生涯学習する姿勢を身につけることができる</p> <p>自己を正しく評価し、自己成長できる。判断力を身につける</p> <p>看護実践を通して、自己の看護観を明確にし、表現することができる</p>

カリキュラム

と教科外活動

教育課程

	科目	単位数	時間数			備考
			講義	実習	計	
基礎分野	物理学	1	30		30	
	論理学	1	30		30	
	日本語表現	1	15		15	
	英語Ⅰ	1	30		30	
	英語Ⅱ	1	30		30	
	情報科学	1	30		30	
	心理学	1	30		30	
	人間関係論	1	30		30	
	宗教哲学	1	30		30	
	倫理学	1	30		30	
	生活科学	1	30		30	
	社会学	1	30		30	
	教育学	1	30		30	
	小計	13	375		375	
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	1	15		15	
	解剖生理学Ⅱ	1	30		30	
	解剖生理学Ⅲ	1	30		30	
	解剖生理学Ⅳ	1	30		30	
	解剖生理学実践	1	30		30	
	生化学	1	30		30	
	臨床栄養学	1	15		15	
	病理学	1	15		15	
	臨床薬理学Ⅰ	1	30		30	
	臨床薬理学Ⅱ	1	30		30	
	微生物学	1	30		30	
	病態学Ⅰ	1	30		30	
	病態学Ⅱ	1	30		30	
	病態学Ⅲ	1	30		30	
	病態学Ⅳ	1	30		30	
	保健医療論	1	30		30	
	社会福祉Ⅰ	1	15		15	
	社会福祉Ⅱ	1	15		15	
	関係法規Ⅰ	1	15		15	
	関係法規Ⅱ	1	15		15	
公衆衛生学	1	15		15		
	小計	21	510	0	510	
専門分野Ⅰ	基礎看護学					
	看護学概論Ⅰ	1	30		30	
	看護学概論Ⅱ	1	30		30	
	共通基本技術	1	30		30	
	日常生活行動援助技術	1	30		30	
	フィジカルアセスメント技術	1	30		30	
	診療に伴う援助技術	1	30		30	
	看護過程	1	30		30	
	日常生活行動援助技術実践	1	30		30	
	診療に伴う援助技術実践	1	30		30	
	臨床看護総論	1	30		30	
	看護研究	1	30		30	
	臨地実習					
基礎看護学実習	3		135	135		
	小計	14	330	135	465	
専門分野Ⅱ	成人看護学					
	成人看護学総論Ⅰ	1	15		15	
	成人看護学総論Ⅱ	1	30		30	
	成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
	成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
	成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30	
	老年看護学					
	老年看護学総論Ⅰ	1	15		15	
	老年看護学総論Ⅱ	1	30		30	
	老年看護学方法論Ⅰ	1	15		15	
	老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	老年看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
	小児看護学					
	小児看護学総論Ⅰ	1	15		15	
	小児看護学総論Ⅱ	1	30		30	
	小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	母性看護学					
	母性看護学総論Ⅰ	1	15		15	
	母性看護学総論Ⅱ	1	30		30	
	母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	精神看護学					
	精神看護学総論Ⅰ	1	15		15	
	精神看護学総論Ⅱ	1	30		30	
精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
精神看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
臨地実習						
成人看護学実習	6		270	270		
老年看護学実習	4		180	180		
小児看護学実習	2		90	90		
母性看護学実習	2		90	90		
精神看護学実習	2		90	90		
	小計	39	600	720	1320	
統合分野	在宅看護論					
	在宅看護論総論Ⅰ	1	15		15	
	在宅看護論総論Ⅱ	1	30		30	
	在宅看護論方法論Ⅰ	1	30		30	
	在宅看護論方法論Ⅱ	1	30		30	
	看護の統合と実践					
	看護管理	1	30		30	
	安全教育	1	15		15	
	災害看護	1	15		15	
	看護技術統合実践	1	30		30	
	臨地実習					
在宅看護論実習	2		90	90		
看護統合実習	2		90	90		
	小計	12	195	180	375	
総計		99	2010	1035	3045	

科目運営時間 1

	科 目	単 位	時 間	学 年		
				1	2	3
基礎分野	物 理 学	1	30	30		
	論 理 学	1	30		30	
	日 本 語 表 現	1	15	15		
	英 語 I	1	30	30		
	英 語 II	1	30		30	
	情 報 科 学	1	30		30	
	心 理 学	1	30	30		
	人 間 関 係 論	1	30	30		
	宗 教 哲 学	1	30	30		
	倫 理 学	1	30	30		
	生 活 科 学	1	30	30		
	社 会 学	1	30	30		
	教 育 学	1	30			30
	小 計	13	375	255	90	30
専門基礎分野	解 剖 生 理 学 I	1	15	15		
	解 剖 生 理 学 II	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 III	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 IV	1	30	30		
	解 剖 生 理 学 実 践	1	30		30	
	生 化 学	1	30	30		
	臨 床 栄 養 学	1	15	15		
	病 理 学	1	15	15		
	臨 床 薬 理 学 I	1	30	30		
	臨 床 薬 理 学 II	1	30		30	
	微 生 物 学	1	30	30		
	病 態 学 I	1	30	30		
	病 態 学 II	1	30	30		
	病 態 学 III	1	30		30	
	病 態 学 IV	1	30		30	
	保 健 医 療 論	1	30	30		
	社 会 福 祉 I	1	15		15	
	社 会 福 祉 II	1	15		15	
	関 係 法 規 I	1	15		15	
	関 係 法 規 II	1	15		15	
	公 衆 衛 生 学	1	15	15		
小 計	21	510	330	180	0	

科目運営時間 2

科 目		単 位	時 間	学 年			
				1	2	3	
専 門 分 野 I	基礎看護学	看護学概論Ⅰ	1	30	30		
		看護学概論Ⅱ	1	30	30		
		共通基本技術	1	30	30		
		日常生活行動援助技術	1	30	30		
		フィジカルアセスメント技術	1	30	30		
		診療に伴う援助技術	1	30	30		
		看護過程	1	30	30		
		日常生活行動援助技術実践	1	30	30		
		診療に伴う援助技術実践	1	30	30		
		臨床看護総論	1	30	30		
		看護研究	1	30		30	
小 計		11	330	300	30	0	
専 門 分 野 II	成人看護学	成人看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		成人看護学総論Ⅱ	1	30	30		
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30		30	
	計		6	165	45	120	0
	老年看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	30		
		老年看護学方法論Ⅰ	1	15		15	
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
		老年看護学方法論Ⅲ	1	30		30	
	計		5	120	45	75	0
	小児看護学	小児看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		小児看護学総論Ⅱ	1	30		30	
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		小児看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
	母性看護学	母性看護学総論Ⅰ	1	15	15		
		母性看護学総論Ⅱ	1	30		30	
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30		30	
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
精神看護学	精神看護学総論Ⅰ	1	15	15			
	精神看護学総論Ⅱ	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅰ	1	30		30		
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30		30		
計		4	105	15	90	0	
小 計		23	600	135	465	0	
統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護論総論Ⅰ	1	15	15		
		在宅看護論総論Ⅱ	1	30		30	
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30		30	
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30		30	
	計		4	105	15	90	0
	看護の統合と実践	看護管理	1	30			30
		安全教育	1	15			15
		災害看護	1	15			15
		看護技術統合実践	1	30			30
	計		4	90	0	0	90
小 計		8	195	15	90	90	
講 義 合 計		76	2010	1035	855	120	

科目運営時間 3

科 目		単 位	時 間	学 年			
				1	2	3	
専門分野 I	基礎看護学	基礎看護学実習	3	135	135		
		基礎看護学実習 I	1	45	45		
		基礎看護学実習 II	2	90	90		
		小計	3	135	135		
専門分野 II	成人看護学	成人看護学実習	6	270		270	
		成人看護学実習 I	4	180		180	
		成人看護学実習 II	2	90		90	
		小計	6	270		270	
	老年看護学	老年看護学実習	4	180		180	
		老年看護学実習 I	2	90		90	
		老年看護学実習 II	2	90		90	
		小計	4	180		180	
	小児看護学	小児看護学実習	2	90		90	
		小計	2	90		90	
		母性看護学	2	90		90	
	精神看護学	精神看護学実習	2	90		90	
		小計	2	90		90	
		在宅看護論	2	90		90	
	統合分野	在宅看護論	在宅看護論実習	2	90		90
			小計	2	90		90
統合看護の実践		看護統合実習	2	90		90	
		小計	2	90		90	
実習合計		23	1035	135	270	630	
計		23	1035	135	270	630	
教科外活動			249	95	80	58	
総 計		23	1284	230	350	688	

教科外活動

	1年生	時間	2年生	時間	3年生	時間
4月					実習ガイダンス	22
			健康診断	4	健康診断	4
			防火避難訓練	4	防火避難訓練	4
5月			実習激励会(学友会)	2	実習激励会(学友会)	2
6月						
7月			スポーツ交流会(学友会)	4		
8月						
9月						
			実習ガイダンス	2		
10月						
11月			実習ガイダンス	2	実習ガイダンス	4
12月					国試対策補講・模試	12
1月					国試対策補講・模試	12
2月			予餞会(学友会)	2	予餞会(学友会)	2
					卒業生交流会	2
3月					卒業式練習	2
			卒業式	2	卒業式	2
通年			単位修得試験	28	単位修得試験	5
小計		0		50		73
総計			123	時間		

授業科目と

講義概要

基礎分野

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
教育学	1	30	3年前・後期	合同	杉浦 勉 (大学教育学部准教授)

科目のねらい

教育学の意義を確認するとともに、教育現場における今日的な課題について理解を深めることをねらいとする。また、それらの課題についてグループワークなどを通して、原因を探り、解決方法を考えたい。将来医療現場で働く受講者に、教育（チーム学校）と医療（医療チーム）が協力し合いながら、学校現場の諸問題を考える講義としたい。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	教育の意義	1. 教育の意義	講 義
2	教育学と 学校教育の現状	2. 日本型学校教育	
2		3. 学校制度と連携	
2		4. チーム学校	
2		5. 確かな学力	
2	学校教育の課題と その対策	6. 健やかな体	
2		7. 豊かな心	
2		8. いじめと多様性	
2		9. 発達障害	
2		10. 虐待・体罰	
2		11. 不登校と教育格差	
2		12. 子供の成長と支援	
2	人の成長と発達	13. 子供との関わり	
2		14. 人の成長と発達	
2	まとめ 単位修得試験	15. まとめ及び試験	

評価方法：講義に使用したワークシートの提出（14回×5点＝70点）及び論述試験（30点）

教科書：資料を毎回配布する。

参考文献：特にテキストは指定しないが、必要に応じて文献及び資料を紹介する

学生のみなさんへ：教育学を教育・研究する者としての基本的な姿勢は、学ぶ者と教える者の両者の立場の相互理解と協調である。授業を通して、お互いに理解し、授業の中でも実践的に深めたい。

看護の

統合と実践

看護の統合と実践 (4単位 120時間)

看護の統合と実践

看護管理
(1単位30時間)

- 医療・看護の動向と政策、看護管理の概要
- 看護ケアマネージメントの理論と実践
- 看護サービスマネジメントの理論と実践
- リーダーシップの理論と自己のリーダーシップスタイル
- キャリアデザインの理論と、自己のキャリアデザイン
- 新人看護師として職場適応するために必要な知識とタイムマネジメント
- 看護倫理再考、組織の一員としての役割

医療安全
(1単位30時間)

- 医療安全を学ぶことの意義、事故防止の考え方
- 診療の補助の事故防止
- 療養上の世話の事故防止
- 業務領域を超えて共通する間違いと発生要因
- 医療安全とコミュニケーション
- 看護師の労務安全衛生上の事故防止
- 組織的な安全管理体制への取り組み
- 医療安全対策の国内外の潮流
- 職業感染予防の実際

災害看護と国際看護
(1単位30時間)

- 看護とグローバル化した社会
- 求められる災害看護と国際看護
- 国内外の災害
- 災害看護の歩み
- 災害看護と法律
- 地震災害看護の展開
- 災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護
- 被災者特性に応じた災害看護の展開
- 災害時のこころのケア
- 国際看護
- 国際協力の実際
- 災害看護の実際1, 2

看護統合演習
(1単位30時間)

- オリエンテーション
- 看護の展開1
- 看護の展開2
- プレゼンテーションの実施と参加

科 目	単 位	時間数	講義時期	授業形態	講 師（実務経験あり）
看護管理	1	30	3年前・後期	クラス別	前田 朝子(看護師)

科目目的

より良い看護を提供するために必要な組織やシステム、看護サービスに関する知識、看護専門職が組織の一員として果たすべき役割、またその役割を発揮するための諸概念について学ぶ。

科目目標

1. 看護管理に大きく影響を与える医療・看護の動向と政策について説明できる。
2. 看護ケアマネジメントの理論と実践について説明できる。
3. 看護サービスマネジメントの理論と実践について説明できる。
4. リーダーシップの諸理論を学び、自己のリーダーシップスタイルについて考え、記述できる。
5. キャリアデザインの諸理論を学び、自己のキャリアデザインについて考え、記述できる。
6. 新人看護師として職場適応するために必要な諸知識と、組織における役割について説明できる。

授業進度と内容

時 間	単 元	学 習 内 容	学習方法
2	医療・看護の動向と政策、看護管理の概要	5. 今日の医療・看護の動向 6. 医療制度と政策 7. 看護管理の目的 8. 看護マネジメントの概念	講 義
4	看護ケアマネジメントの理論と実践	6. ケアマネジメントプロセス 7. 医療安全管理、感染管理 8. チーム医療、多職種連携 9. 地域とつなぐ連携 10. 看護基準と看護手順	講 義
6	看護サービスマネジメントの理論と実践	8. 看護組織論 9. 看護ケア提供方式 10. 人的資源管理・労務管理 11. 物品の管理 12. 情報の管理 13. 経営への参画 14. 看護サービスの質の評価	講 義
4	リーダーシップの理論と自己のリーダーシップスタイル	6. リーダーシップの諸理論 7. 動機づけ 8. 変革の時代に求められるリーダーシップ 9. サーバントリーダーシップ 10. シェアドリーダーシップ	講 義 演 習
4	キャリアデザインの理論と、自己のキャリアデザイン	4. キャリアデザインの諸理論 5. 個人の視点から考えるキャリア発達 6. 組織の視点から考えるキャリア開発、目標管理	講 義 演 習

4	新人看護師として職場 適応するために必要な 知識とタイムマネジメ ント	5. 新人看護師の特徴と新人看護師の適応 6. ストレスマネジメント 7. タイムマネジメント 8. 多重課題と優先順位	講 義 演 習
6	看護倫理再考、 組織の一員としての役 割	5. 看護倫理 6. 組織文化と組織倫理 7. 組織における係の役割と活動 8. 看護の継続性と責任	講 義 演 習

評価方法 : 各回のミニレポート (15 回×2 点=30 点)、2つの課題レポート (2×20 点=40 点)、
小テスト (30 点)

教科書 : 「統合分野 看護管理 看護の統合と実践 I」医学書院
「看護職の倫理綱領」日本看護協会

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
安全教育(医療安全)	1	30	3年 後期	クラス別	森本 千恵子（看護師） 小池ひとみ（看護師）

科目目的

医療現場の様々な危険を、看護技術や業務との関連で認識し、間違いや不適切行為が、患者にどれほど重大な結果をもたらすのかを理解する。

科目目標

1. 医療看護におけるリスクマネジメントについて理解する。
2. 看護職の責任と法的責任について理解する。
3. 看護・医療事故予防と看護実践について理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全を学ぶことの意義	1. 人は何故間違いをおかすのか 2. 意識状態の変動と医療安全を学ぶことの意義 3. 人間の3つの行動モデルと医療安全を学ぶことの意義 4. 看護職を選ぶことの重さと安全努力の責務	講義
	事故防止の考え方	1. 医療事故と看護業務 2. 看護事故の構造 3. 看護事故防止の考え方	講義
4	診療の補助の事故防止	1. 患者に投与する業務における事故防止 1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故防止 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器での事故防止 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服与薬業務と事故防止 6) 経管栄養(注入)業務と事故防止 2. 継続中に危険な医療行為の観察・管理における事故防止 1) チューブ管理と事故防止	講義
4	療養上の世話の事故防止	1. 療養上の世話における2群の事故の捉え方と防止 1) 転倒・転落事故防止 2) 摂食中の窒息・誤嚥事故防止 3) 異食事故防止 4) 入浴中の事故防止	講義
2	業務領域を超えて共通する間違いと発生要因	1. 業務領域を超えて共通する患者間違い 2. 間違いを誘発する多重課題、タイムプレッシャーと業務途中の中断 3. 新人特有の危険な思い込みと行動パターン	講義

時 間	単元	学習内容	学習方法
2	医療安全とコミュニケーション	1. 不正確・不十分なコミュニケーションは事故の重要要因 2. 事故防止のための医療職間のコミュニケーション 3. 医療事故防止のための患者とのコミュニケーション 4. 自己の未然防止上重要なコミュニケーション	講 義
4	看護師の労務安全衛生上の事故防止	1. 職業感染 2. 抗がん剤の暴露防止 3. 放射線被爆 4. ラテックスアレルギー 5. 院内暴力	講 義
4	組織的な安全管理体制への取り組み	1. 組織としての医療安全対策 医療安全管理のための職員研修 (KYT など) 2. システムとしての事故防止の具体例 3. 重大事故発生時の医療チーム及び組織	講 義 演 習
2	医療安全対策の国内外の潮流	1. 我が国の医療安全対策の潮流 2. 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携 3. 産業界から学ぶヒューマンファクターズの取入れ	講 義
6 (小池)	職業感染予防の実際	1. 感染防止技術 1) 感染の 3 要素 2) 感染成立の輪 3) 3 つの感染経路 4) 医療関連感染対策の基本「基本の木」 ①手指衛生(手洗い、手指消毒) ②個人防護具 (PPE) の選択と着脱方法とタイミング 2. 職業感染 感染経路とその予防策 1) 接触感染 ①血液・体液 ②排泄物 ③ウイルス・細菌 ④ダニ 2) 飛沫感染 ①インフルエンザ ②コロナウイルス 3) 空気感染 ①結核 ②麻疹・水痘	講 義 演 習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践[2]医療安全 医学書院
看護が見える 1・2 MEDIC MEDIA

参考文献 : 必要時、資料を配布します。

学生のみなさんへ : 日常の実習で遭遇するまた、引き起こしやすい事故事例を皆さんとディスカッションしながら進めます。

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
災害看護 （災害看護と国際看護）	1	30	3年後期	クラス別	島津世子(看護師) 稲葉 文(看護師) 大野夏代(看護学部教授) 鈴木聡子(理学療法士) 王子総合病院 (DMAT) (看護師)

科目目的

災害が暮らしと密着に関係しながら、人の生命や生活に影響を及ぼすことを理解する。また、災害時における看護の役割を果たすために必要な知識と看護活動について学ぶ。

グローバル化の中に生きる現代の看護職者として国際看護を学ぶ意義を理解する。

科目目標

1. 災害及び災害看護に関する基礎知識を理解する。
2. 災害発生時の社会の仕組みと対応について理解する。
3. 災害が人々の生命や健康障害に及ぼす影響を理解する。
4. 災害時に看護が果たす役割、災害各期における看護支援活動を理解する。
5. 世界の国々に関心を持ち、国際協力開発を進めることが、地球全体の減災につながることを理解する。

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
4 (稲葉)	看護とグローバル化した社会	1. グローバル化の影響 2. 看護職者に求められるグローバルな視点	講義
	求められる災害看護と国際看護	1. 災害看護・国際看護の原則 1) 看護行為の判断の基盤になるもの 2) 人道支援の起源と思想 3) 人道支援の原則	講義
2 (島)	国内外の災害	1. 災害看護と国際看護を学ぶ意義 1) 災害被害の国際化 2) 近年の国内外の災害と災害の種類 3) 災害看護の役割 4) 国際的な広がりをもつ災害看護	講義
2 (島)	災害看護の歩み	1. 災害看護の歩みと看護活動 2. 災害医療と災害看護の基礎知識 3. 災害看護の特徴	講義
	災害看護と法律	1. 被災者救助法と関係法規 2. 救援体制と提供されるサービス 3. 救援活動の現状と課題	
2 (島)	地震災害看護の展開	1. 発災直後から出動までの看護 2. 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 1) 超急性期・急性期の医療のニーズ 2) 超急性期・急性期の災害保健医療と看護実践 ①トリアージ (STAT法・PAT法) ②治療 (観察と応急処置) ③搬送	講義 DVD 演習
2 (島)	災害サイクルの特徴と保健医療の役割と看護	1. 活動フィールドごとの災害保健医療と看護実践 1) 急性期・亜急性期の看護 2) 慢性期・復興期の看護 3) 静穏期の看護 2. 要配慮者への看護	講義

	単 元	学 習 内 容	学習方法
2 (島)	被災者特性に応じた 災害看護の展開	1. 子どもに対する災害看護 2. 妊産婦に対する災害看護 3. 高齢者に対する災害看護 4. 障害者に対する災害看護 5. 精神障害者に対する災害看護 6. 慢性疾患患者に対する災害看護 7. 原子力災害による被災者への看護 8. 残留外国人に対する災害看護	講 義
2 (島)	災害時のこころのケア	1. こころのケア総論 2. 災害時のストレスとストレス反応 3. 被災者のこころのケア 4. 救護者のこころのケア	講 義
4 (大野)	国際看護	1. 国際貢献 1) 世界における災害保健医療の潮流 2. 国際看護とは 1) 世界の健康問題の現状 2) グローバルヘルス 3) 国際協力の仕組み 4) 文化を考慮した看護 5) 国際看護活動の展開過程 6) 開発協力と看護 7) 国際救助と看護 8) 21世紀の国際協力の課題	講 義
2 (鈴木)	国際協力の実際	1. 開発途上国における国際救援活動の実際	講 義
4 (王子総 合病院)	災害看護の実際 1 (DMAT)	1. 災害看護の基本的考え方と看護の役割 2. 災害関係諸機関との連携 3. 災害各期における看護活動 4. 避難所における健康と生活支援 5. 保健衛生管理	講 義 演 習
4 (島)	災害看護の実際 2	1. 災害現場での応急処置・運搬法 2. トリアージの実際	演 習
1	単位修得試験		

評価方法 : 筆記試験

教科書 : 看護の統合と実践【3】災害看護学・国際看護学

医学書院

参考文献 : 必要時、資料を配布

科目	単位	時間数	講義時期	授業形態	講師（実務経験あり）
看護統合演習	1	30	3年 後期	クラス別	吉野 悦子（看護師）

科目目的

1. 紙面事例に応じた看護実践ができる
2. グループメンバー全員による参加型実践とする

科目目標

1. 4事例の紙面事例に対して看護を考えることができる
2. 看護計画に基づいた看護(安全、安楽、自立を促す援助)が実践できる
3. 他のメンバーに対して、紙面事例の看護過程の展開と看護をプレゼンテーションし、質疑に答えることができる

授業進度と内容

時間	単元	学習内容	学習方法
2	オリエンテーション	1. 目的、目標 2. 展開 3. 方法 4. 評価 5. グループメンバー発表	全体講義
8	看護の展開1	1. 疾患の理解 2. 事例に対するアセスメント 3. 看護計画の立案	個人ワーク グループワーク
12	看護の展開2	1. 看護計画に基づく実技演習 1) 共通技術（コミュニケーション、教育・指導技術、記録・報告、感染予防） 2) 日常生活行動援助技術 3) 観察・アセスメント技術 4) 診療に伴う援助技術 2. 看護計画の修正	グループワーク グループ演習
8	プレゼンテーションの実施と参加	1. プレゼンテーションの実施 1) 実技発表 2. 他メンバーのプレゼンテーションの参加	演習 個人ワーク

評価方法：看護の展開の内容・プレゼンテーション内容・振り返りレポートの提出にて評価

教科書：各看護学で学習した看護技術の教科書全般

参考文献：必要時、資料を配布

専門分野Ⅱ

臨地実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
老年看護学実習 I	2	90	3年 前期	中村 園美(看護師)

科目目的

老年期にある対象者の特徴を理解し、安全・安楽な療養環境を整えるための援助を実践できる基礎的能力を養う。

科目目標

1. 老年期にある対象者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 加齢変化や健康障害をもつ対象者に必要な看護を立案し、実施・評価することができる。
3. 老年期にある対象者の特徴を理解し、必要な援助について安全・安楽を基本に実施することができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、多職種と協働の必要性を理解できる。
5. 高齢者の地域における療養の場を知り、望む生活を支える看護師や他職種の役割が理解できる。
6. 対象の援助を実践するための基礎的な知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の全体像把握 3. 対象者の生活行動上の課題に着目したアセスメント 4. 家族を含めたアセスメント 5. 対象者のもてる力を引き出す看護援助の具体化・実施 6. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 7. 実施した看護の評価と修正 8. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 9. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 10. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 11. 高齢者の地域療養の仕組みと機能の理解 12. 高齢者の生活を支える職種の種類とその役割の理解 13. 地域で療養する高齢者への看護師の役割	病棟実習
1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的の理解 2. 多職種の専門性の理解と連携の必要性の理解 3. 高齢者の社会参加の実際	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
老年看護学実習 I	2	90	3年 前期	中村 園美(看護師)

科目目的

老年期にある対象者の特徴を理解し、安全・安楽な療養環境を整えるための援助を実践できる基礎的能力を養う。

科目目標

1. 老年期にある対象者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から統合的に理解できる。
2. 加齢変化や健康障害をもつ対象者に必要な看護を立案し、実施・評価することができる。
3. 老年期にある対象者の特徴を理解し、必要な援助について安全・安楽を基本に実施することができる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、多職種と協働の必要性を理解できる。
5. 高齢者の地域における療養の場を知り、望む生活を支える看護師や他職種の役割が理解できる。
6. 対象の援助を実践するための基礎的な知識・技術の向上に努める姿勢をもつことができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的側面の変化の理解 2. 老年期の発達段階の特徴をふまえた対象者の全体像把握 3. 対象者の生活行動上の課題に着目したアセスメント 4. 家族を含めたアセスメント 5. 対象者のもてる力を引き出す看護援助の具体化・実施 6. 対象者の安全・安楽に配慮した看護援助の工夫 7. 実施した看護の評価と修正 8. 高齢者の特徴や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 9. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度 10. 事実に基づいた簡潔・明瞭・正確な記録と報告 11. 高齢者の地域療養の仕組みと機能の理解 12. 高齢者の生活を支える職種の種類とその役割の理解 13. 地域で療養する高齢者への看護師の役割 	病棟実習
<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の疾病の特徴や処置・治療の目的の理解 2. 多職種の専門性の理解と連携の必要性の理解 3. 高齢者の社会参加の実際 	
<ol style="list-style-type: none"> 1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力 	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
小児看護学実習	2	90	3年 前期	斉藤 恭子 (看護師)

科目目的

小児の特徴と発達段階を理解し、健康障害を持つ小児及びその家族に応じた看護を実践できる能力を養う

科目目標

1. 健康な小児の発達段階に応じた日常生活の実際を理解することができる。
2. 健康障害や入院が小児と家族に及ぼす影響を理解することができる。
3. 健康障害をもった小児と家族に必要な看護を立案、実施、評価することができる。
4. 小児各期の特徴を踏まえた経過別、治療・処置別、症状別看護を実践できる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員として看護の役割を学び、他職種と協働することができる。
6. 看護者としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 乳幼児の身体的・精神的・社会的な成長・発達特徴 2. 遊びの重要性と安全な遊びの実際 3. 乳幼児の安全と健康管理 4. 健康障害を持つ小児の成長・発達の観察とアセスメント 5. 小児の健康障害が生活や家族に及ぼす影響 6. 対象者に必要な看護援助の具体化 7. 基本的な看護援助の適応と工夫 8. 実施した看護の評価と修正 9. 小児の成長発達や健康障害に応じたコミュニケーションの工夫 10. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度	病棟実習 外来実習 保育園実習
1. 発達に応じた保育のあり方 2. 各経過別の特徴に合わせた援助の実施と評価・修正 3. 保育士の役割と保育園の機能と役割	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科 目	単 位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
母性看護学実習	2	90	3年 前期	島 津世子(看護師・助産師)

科目目的

母性及び新生児の生理的变化を理解し、妊娠・分娩・産褥期の母性とその家族である新生児及び父性がより健康に過ごせるための援助を学ぶ。

科目目標

1. 正常な妊娠経過を理解し、妊娠各期に必要な保健指導が理解できる。また妊娠中の異常な状態について理解できる。
2. 正常な分娩経過を理解し、分娩各期に必要な援助を考えることができる。また分娩時の異常について理解できる。
3. 正常な産褥経過を理解し、個々に応じた適切な援助ができる。また産褥時の異常について理解できる。
4. 新生児の生理的な特徴を理解し、母体外生活へ適応するための援助ができる。また、新生児の異常について理解できる。
5. 妊産褥婦を支える家族の心理を理解し、家族の果たす役割について考えることができる。
6. 看護者として母親の母性意識を高めることへの役割を理解できる。
7. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉の機関との関係について理解ができる。
8. 看護者としての姿勢・態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 妊娠経過に応じた身体的・精神的・社会的変化 2. 妊娠各期に必要な保健指導とその実際 3. 妊娠各期に起こりやすい異常 4. 正常な分娩経過と分娩時の異常 5. 正常な産褥経過と産褥時の異常 6. 個々に応じた適切な援助 7. 新生児の特徴と異常 8. 新生児への日常生活の援助 9. 実施した看護の評価と修正 10. 家族とのコミュニケーションと役割の理解 11. コミュニケーションの場の雰囲気づくりと受容的態度	病院実習 助産院実習
1. 母親の母性意識を高めることへの役割 2. 母性を取り巻く地域の医療、保健、福祉の機関との関係	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
精神看護学実習	2	90	3年 前期	千葉 弘恵(看護師)

科目目的

メンタルヘル스에 장애를を抱는 대상자의 특징과 생활者としての側面を理解し、地域で生活し続けるための援助を考る。

科目目標

1. メンタルヘル스에 장애를を抱는入院している対象者を理解する。
2. 対象者の生活とセルフケア向上の方法を理解し実践できる。
3. 対象者が地域で生活し続けるためのセルフケア能力とその援助を学び、必要な知識と社会資源を考ることができる。
4. 保健・医療・福祉チームの専門性を知り、看護の役割として何が必要なのか考ることができる。
5. 看護者としての姿勢、態度を身につけ自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学習内容	学習方法
1. 対象者の身体的・精神的・社会的特徴 2. 対象者のコミュニケーション能力や日常生活度行動の課題 3. 精神障害をもつ対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護者の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 薬物治療・特殊治療・検査が効果的に行われるための看護	病棟実習 就労継続支援施設実習
1. 病棟における安全管理の特殊性 2. 医療チームの役割と相互連携 3. 地域における支援施設の役割	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

統合分野

臨地実習

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
在宅看護論実習	2	90	3年 前期	小宮山 政枝(看護師)

科目目的

地域で暮らす人々、療養する人々とその家族の課題を生活の課題として理解し、その人々が地域や在宅で健康の維持・増進が図られるよう援助できる能力を養う。

科目目標

1. 地域で療養している人々とその家族の療養上の課題を理解できる。
2. 地域で療養している人々が在宅で健康の維持・増進を図り、在宅療養を継続するための看護の方法が理解できる。
3. 地域で生活する人々の健康と安全な暮らしを支援する多職種の役割・機能を理解し、地域における看護の在り方を理解できる。
4. 保健・医療・福祉チームの一員としての看護の役割と様々な職種の役割を理解し、他職種と協働することの必要性を理解できる。
5. 看護師としての姿勢、態度を身につけ積極的に自己の向上に努めることができる。

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
【訪問看護実習】 1. 対象者と家族の身体的・精神的・社会的特徴 2. 生活上の課題の把握と看護技術の提供方法の実際 3. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 4. 看護師の態度・行動が対象者に及ぼす影響 5. 医療施設内看護と在宅看護の違い	訪問看護 実習
【デイケア実習】 1. 地域で施設を利用している人々とその家族のニーズ 2. 地域における保健・医療・福祉サービスの実際 3. 地域で人々の生活を支える職種間の相互連携 4. 地域における看護の役割	デイケア 実習
【その他】 1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

科目	単位	時間数	講義時期	単位認定教員(実務経験あり)
看護統合実習	2	90	3年 後期	吉野 悦子(看護師)

科目目的

医療チームにおける看護師の役割を理解し、専門職者として研鑽し続ける基本能力を修得する。

科目目標

1. 対象者の個別性・状況に応じて、優先度を考慮した看護実践ができる
2. 病院組織における看護管理の実際を理解できる
3. 継続看護の必要性を再認識し、実際を理解できる
4. 看護の専門性を自覚し、看護師としての心構えができる

学習内容と方法

学 習 内 容	学習方法
1. 複数の対象者に対する優先度を考えた看護 2. 対象者に必要な看護の立案・実施・評価・修正 3. 病棟における看護管理の実際 4. 退院調整・多職種連携の実際	病棟実習 学内実習
1. 看護の専門性と役割 2. 自己の看護観	
1. カンファレンスへの主体的な参加 2. 看護学生としての倫理的行動の実践 3. 自己の課題を受け入れ、それらを解決するための力	

評価方法 : 実習評価表

教科書 : 教科書全般

参考文献 : 必要時配付

複数教員が
担当する科目
の配点表

複合科目の単位認定 配点表 (別表 5)

- ・単位認定は学則第11条において必要事項を定める
- ・単位認定は学則第11条において必要事項を定める複合科目とは、同一科目を複数の講師で時間等を分担して講義する科目という。
- ・同一科目で複数の講師の場合、合計で100点満点とし、1回の単位修得認定試験で実施する。

	科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年	
基礎分野	物理学	森山 隆則	30	30	100	1	
	論理学	林寺 正俊	30	30	100	2	
	日本語表現	小杉 直美	15	15	100	1	
	英語Ⅰ	鳴海 恭子	30	30	100	1	
	英語Ⅱ	鳴海 恭子	30	30	100	2	
	情報科学	平間 嘉	30	30	100	2	
	心理学	鈴木 珠世	30	30	100	1	
	人間関係論	鈴木 珠世	30	30	100	1	
	宗教哲学	谷川 靖郎	30	30	100	1	
	倫理学	阿部 秀男	30	30	100	1	
	生活科学	小野寺 典子	30	30	100	1	
	社会学	鄭 斗鎬	30	30	100	1	
	教育学	杉浦 勉	30	30	100	3	
専門基礎分野	解剖生理学Ⅰ	渡辺 潤	15	15	100	1	
	解剖生理学Ⅱ	井上 貴一朗	30	30	100	1	
	解剖生理学Ⅲ	東城 庸介	30	30	100	1	
	解剖生理学Ⅳ	東城 庸介	30	30	100	1	
	解剖生理学実践	高橋 久江	30	30	100	2	
	生化学	今川 敏明	30	30	100	1	
	臨床栄養学	嶋田 祐子	15	15	100	1	
	病理学	森山 隆則	15	15	100	1	
	臨床薬理学Ⅰ	宇野 健一	30	30	100	1	
	臨床薬理学Ⅱ	宇野 健一	30	30	100	2	
	微生物学	澤田 幸治	30	30	100	1	
	病態学Ⅰ	運	田崎 悌史	30	10	30	1
		循	加藤 法喜		10	30	
		呼	五十嵐 毅		6	25	
		血	石立 尚路		4	15	
	病態学Ⅱ	消	吉田 秀明	30	12	40	1
		肝	猪又 崇志		4	15	
		内	猪又 崇志		4	15	
		腎	河田 哲也		10	30	
	病態学Ⅲ	外	鎌田 理	30	6	30	2
		女	金上 宣夫		10	35	
		救	岩見沢市消防署		4	—	
		放	鈴木 祐介		10	35	
病態学Ⅳ	眼	加藤 雅史	30	6	20	2	
	耳	藤原 美秋		4	15		
	歯	千徳 敏克		4	15		
	皮	國分 一郎		6	20		
	脳	伊藤 和則		4	10		
	脳	石崎 努		6	20		

科 目		講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年
専門基礎分野	保健医療論	丸山 淳士	30	14	50	1
		日下 勝博		16	50	
	社会福祉 I	澤 伊三男	15	15	100	2
	社会福祉 II	澤 伊三男	15	15	100	2
	関係法規 I	小野田 充宏	15	15	100	2
	関係法規 II	小野田 充宏	15	15	100	2
公衆衛生学	都築 俊文	15	15	100	1	
専門分野 I	看護学概論 I	斉藤 恭子	30	30	100	1
	看護学概論 II	<small>理災論</small> 田中 恵美子	30	26	80	1
		<small>災害</small> 赤坂 恵子		4	20	
	共通基本技術	<small>技術等</small> 朝倉 あつ子	30	14	50	1
		<small>感染等</small> 斉藤 恭子		16	50	
	日常生活行動援助技術	赤坂 恵子	30	30	100	1
	フィジカルアセスメント技術	中村 恵子	30	30	100	1
	診療に伴う援助技術	赤坂 恵子	30	30	100	1
	看護過程	斉藤 恭子	30	30	100	1
	日常生活行動援助技術実践	中村 恵子	30	30	100	1
	診療に伴う援助技術実践	赤坂 恵子	30	14	100	1
		中村 恵子		16		1
	臨床看護総論	高橋 久江	30	30	100	1
	看護研究	斉藤 恭子	30	30	100	2
専門分野 II	成人看護学総論 I	千葉 祐子	15	15	100	1
	成人看護学総論 II	千葉 祐子	30	30	100	1
	成人看護学方法論 I	<small>循</small> 中上 紀子	30	6	25	2
		<small>消</small> 田中 幸代		8	25	
		<small>運</small> 金井 加代		8	25	
		<small>脳</small> 高橋 利光		8	25	
	成人看護学方法論 II	<small>慢性期</small> 千葉 祐子	30	10	35	2
		<small>過程</small> 千葉 祐子		12	35	
		<small>終末</small> 上岡 晃		8	30	
	成人看護学方法論 III	<small>周術</small> 神田 直樹	30	20	70	2
		<small>侵襲</small> 渡辺 静香		10	30	
	特別講義	<small>ME</small> 真下 泰	4	—	—	2
	成人看護学方法論 IV	<small>演習</small> 千葉 祐子	30	30	100	2
	老年看護学総論 I	朝倉 あつ子	15	15	100	1
	老年看護学総論 II	<small>動向</small> 沼田 環	30	12	40	1
		<small>演習</small> 千葉 弘恵		18	60	
老年看護学方法論 I	若林 崇雄	15	4	30	2	
	山下いづみ		11	70		
老年看護学方法論 II	緑川 弥生	30	12	35	2	
	<small>活動</small> 乗次 美弥子		6			
	<small>過程</small> 乗次 美弥子		12	65		
老年看護学方法論 III	<small>身体</small> 小原 菜穂	30	8	25	2	
	<small>認知</small> 疋田 健		8	25		
	<small>コミュ</small> 朝倉 あつ子		6	25		
	<small>エンド</small> 上岡 晃		8	25		

	科 目	講 師 名	総時間数	時間数	配点表	学年	
専 門 分 野 Ⅱ	小児看護学総論Ⅰ	岡田 千佐子	15	15	100	1	
	小児看護学総論Ⅱ	岡田 千佐子	30	30	100	2	
	小児看護学方法論Ⅰ	佐藤 俊哉	30	30	100	2	
	小児看護学方法論Ⅱ	佐藤 真紀子	30	22	70	2	
		花井 未帆		8	30		
	母性看護学総論Ⅰ	小林 和子	15	15	100	1	
	母性看護学総論Ⅱ	齊藤 麻木	30	30	100	2	
	母性看護学方法論Ⅰ	齊藤 麻木	30	22	100	2	
		演習 齊藤 小林 島 工藤		8	—		
	母性看護学方法論Ⅱ	リプロ 異常	佐藤 真紀子	30	6	20	2
		過程	小林 和子		14	50	
					10	30	
	精神看護学総論Ⅰ	千葉 弘恵	15	15	100	1	
	精神看護学総論Ⅱ	栗内 崇	30	30	100	2	
	精神看護学方法論Ⅰ	清水 祐輔、 嶋岡 修平他	30	16	50	2	
		鈴木 ゆき		14	50		
精神看護学方法論Ⅱ	齋藤 伸	30	10	30	2		
	千葉 弘恵		20	70			
統 合 分 野	在宅看護論総論Ⅰ	小宮山 政枝	15	15	100	1	
	在宅看護論総論Ⅱ	柴田 ひとみ	30	30	100	2	
	在宅看護論方法論Ⅰ	技術 展開	小宮山 政枝	30	10	30	2
			三宅 由佳他		20	70	
	在宅看護論方法論Ⅱ	小宮山 政枝	30	30	100	2	
	看護管理	根本 香	30	30	100	3	
	安全教育	吉田 尚子	15	15	100	3	
	災害看護	島 津世子	15	13	100	3	
		王子病院 DMAT		2	—		
看護技術統合実践	吉野 悦子	30	30	100	3		

旧カリキュラム

<未修得者>

対応科目

教育課程 旧カリキュラム未修得者に対応する科目

旧カリキュラム		未履修者・未修得者対応科目				新カリキュラム								
分野	科目名	単位数	時間数	学年	科目名	単位数	時間数	学年	備考	分野	科目名	単位	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤	物理学	1	30	1						基礎分野	看護物理学	1	15
		論理学	1	30	2	論理学	1	30	2年後期			論理学	1	30
		日本語表現	1	15	1	日本語表現	1	15	1年後期			情報処理演習	1	15
		英語 I	1	30	1	英語 I	1	30	1年後期			情報技術と看護	1	15
		英語 II	1	30	2	英語 II	1	30	2年前期			法学入門	1	15
		情報科学	1	30	2	情報科学	1	30	2年前期	補講		心理学	1	30
	人間と生活の理解	心理学	1	30	1							人間関係論	1	30
		人間関係論	1	30	1	人間関係論	1	30	1年後期			仏教学概論	1	15
		宗教哲学	1	30	1	仏教学概論	1	15	1年後期	新カリ科目		生命倫理	1	15
					宗教哲学	1	15	1年後期	補講			社会学	1	30
		倫理学	1	30	1	生命倫理	1	15	1後期	新カリ科目		英語 I	1	30
					倫理学	1	15	1前期	補講			英語 II	1	30
		生活科学	1	30	1							日本語表現	1	15
		社会学	1	30	1							教育学	1	30
教育学	1	30	3	教育学	1	30	3年							
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学 I	1	15	1						専門基礎分野	解剖生理学 I	1	15
		解剖生理学 II	1	30	1	解剖生理学 II	1	30	1年前期			解剖生理学 II	1	30
		解剖生理学 III	1	30	1	解剖生理学 III	1	30	1年前期			解剖生理学 III	1	30
		解剖生理学 IV	1	30	1	解剖生理学 IV	1	30	1年前期			解剖生理学 IV	1	30
		解剖生理学実践	1	30	2	解剖生理学実践	1	30	2年前期	補講		生化学	1	30
		生化学	1	30	1	生化学	1	30	1年前期			臨床栄養学	1	15
	疾病の成り立ちと回復の促進	臨床栄養学	1	15	1	臨床栄養学	1	15	1年後期			病理学	1	30
		病理学	1	15	1	病理学	1	30	1年前後期			薬理学 I	1	30
		臨床薬理学 I	1	30	1	薬理学 I	1	30	1年後期	新カリ科目		薬理学 II	1	30
		臨床薬理学 II	1	30	2	薬理学 II	1	30	2年前期	新カリ科目		微生物学	1	30
		微生物学	1	30	1	微生物学	1	30	1年前後期			病態治療論 I	1	30
		病態学 I	1	30	1	病態治療論 I	1	30	1前後期	新カリ科目		病態治療論 II	1	30
		病態学 II	1	30	1	病態治療論 II	1	30	1年前後期	新カリ科目		病態治療論 III	1	30
		病態学 III	1	30	2	病態治療論 III	1	30	2年前期	新カリ科目		病態治療論 IV	1	30
	病態学 IV	1	30	2	病態治療論 IV	1	30	2年前期	新カリ科目	リハビリテーション概論		1	15	
	健康支援と社会保障制度	保健医療論	1	30	1							病態治療論演習	1	15
		社会福祉 I	1	15	2	社会福祉 I	1	15	2年前期	補講		医療概論	1	15
		社会福祉 II	1	15	2	社会福祉 II	1	15	2年前期	補講		地域・在宅医療論	1	15
		関係法規 I	1	15	2	関係法規 I	1	15	2年前期	補講		社会福祉	1	30
		関係法規 II	1	15	2	関係法規 II	1	15	2年前期	新カリ科目		関係法規	1	15
		公衆衛生学	1	15	1	公衆衛生学	1	15	1年前後期			公衆衛生学	1	15
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論 I	1	30	1	看護学概論 I	1	30	1年前期		専門分野	看護学概論 I	1	30
		看護学概論 II	1	30	1	看護学概論 II	1	30	1年前後期			看護学概論 II	1	30
		共通基本技術	1	30	1							共通基本技術	1	30
		日常生活行動援助技術	1	30	1							日常生活援助技術 I	1	30
		フィジカルアセスメント技術	1	30	1							日常生活援助技術 II	1	30
		診療に伴う援助技術	1	30	1	診療に伴う援助技術 I	1	15	1年後期	新カリ科目		フィジカルアセスメント技術	1	30
					補講			15				診療に伴う援助技術 I	1	15
		看護過程	1	30	1	看護過程	1	30	1年前後期			診療に伴う援助技術 II	1	30
		日常生活行動援助技術実践	1	30	1	日常生活援助技術 II	1	30	1年前後期	新カリ科目		看護過程	1	30
		診療に伴う援助技術実践	1	30	1	診療に伴う援助技術実践	1	30	1年後期	補講		看護研究の基礎	1	15
		臨床看護学総論	1	30	1	病態治療論演習	1	15	1年前後期	新カリ科目		看護研究	1	30
					臨床看護学総論(症状・状態別看護)	1	15	1年後期	補講			地域・在宅看護概論 I	1	15
		看護研究	1	30	2	看護研究の基礎	1	15	2年前後期	新カリ科目		地域・在宅看護概論 II	1	30
					看護研究	1	15	2年後期	補講			地域・在宅看護援助論 I	1	30
基礎看護学実習 I	1	45	1	基礎看護学実習 I	1	45	1年前期		地域・在宅看護援助論 II	1	30			
基礎看護学実習 II	2	90	1	基礎看護学実習 II	2	90	1年後期		家族看護論	1	15			
									多職種連携	1	30			

旧カリキュラム					未履修者・未修得者対応科目					新カリキュラム					
分野	科目名	単位数	時間数	学年	科目名	単位数	時間数	学年	備考	分野	科目名	単位	時間数		
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学総論Ⅰ	1	15	1	人間発達論（成人期）	1	12	1年前期	新カリリ科目	成人看護学	成人看護学概論	1	30	
						成人看護学概論（成人の生活理解）	1	2	1年前後期	新カリリ科目		成人看護学援助論Ⅰ	1	30	
		成人看護学総論Ⅱ	1	30	1	成人看護学概論	1	30	1年後期	新カリリ科目		成人看護学援助論Ⅱ	1	30	
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30	2	周術期看護	1	30	2年前期	新カリリ科目		成人看護学援助論Ⅲ	1	30	
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30	2	成人看護学援助論Ⅱ	1	30	2年前期	新カリリ科目		老年看護学概論	1	15	
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	2	成人看護学援助論Ⅰ	1	30	2年前期	新カリリ科目		老年看護学援助論Ⅰ	1	30	
		成人看護学方法論Ⅳ	1	30	2	成人看護学援助論Ⅲ	1	30	2年前期	新カリリ科目		老年看護学援助論Ⅱ	1	30	
	老年看護学	老年看護学総論Ⅰ	1	15	1	人間発達論（老年期）	1	8	1年前期	新カリリ科目	小児看護学	小児看護学概論	1	30	
						老年看護学概論（老年期理解）	1	4	1年前期	新カリリ科目		小児看護学援助論Ⅰ	1	30	
						生活療養の場のリスクマネジメント	1	2	1年前期	補講		小児看護学援助論Ⅱ	1	30	
		老年看護学総論Ⅱ	1	30	1	老年看護学概論（統計、動向）	1	12	1年後期	新カリリ科目		母性看護学	母性看護学概論	1	30
						高齢者体験演習、倫理	1	18		補講			母性看護学援助論Ⅰ	1	30
		老年看護学方法論Ⅰ	1	15	2	老年看護学援助論Ⅰ	1	30	2年前期	新カリリ科目			母性看護学援助論Ⅱ	1	30
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30	2	老年看護学援助論Ⅱ	1	30	2年後期	新カリリ科目			母性看護学援助論Ⅲ	1	15
	老年看護学方法論Ⅲ	1	30	2	セルフマネジメントを支える看護（がん看護（小児以外））	1	10	2年前期	新カリリ科目	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	1	15		
						1	22	2年前期	新カリリ科目		精神看護学概論Ⅱ	1	30		
	小児看護学	小児看護学総論Ⅰ	1	15	1	人間発達論（小児）	1	10	1年前後期		新カリリ科目	精神看護学援助論Ⅰ	1	30	
						子どもの栄養	1	4	1年前後期		補講	精神看護学援助論Ⅱ	1	30	
		小児看護学総論Ⅱ	1	30	2	小児看護学概論	1	30	2年前期	新カリリ科目	看護の統合と実践	看護管理	1	30	
		小児看護学方法論Ⅰ	1	30	2	小児看護学援助論Ⅰ	1	30	2年前期	新カリリ科目		医療安全	1	30	
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30	2	小児看護学援助論Ⅱ	1	30	2年後期	新カリリ科目	災害看護と国際看護		1	30		
	母性看護学	母性看護学総論Ⅰ	1	15	1	母性看護学概論	1	30	1年後期	新カリリ科目		看護統合演習	1	30	
		母性看護学総論Ⅱ	1	30	2	母性看護学援助論Ⅰ	1	30	2年前期	新カリリ科目	領域横断科目	人間発達論	1	30	
		母性看護学方法論Ⅰ	1	30	2	母性看護学援助論Ⅱ	1	30	2年後期	新カリリ科目		周術期看護	1	30	
		母性看護学方法論Ⅱ	1	30	2	母性看護学援助論Ⅲ	1	15	2年後期	新カリリ科目		セルフマネジメントを支える看護	1	30	
					妊娠、分娩、産褥の異常と看護	1	15	2年後期	補講	がん看護		1	30		
	精神看護学	精神看護学総論Ⅰ	1	15	1	精神看護学概論Ⅰ	1	15	1年後期	新カリリ科目	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1		
		精神看護学総論Ⅱ	1	30	2	精神看護学概論Ⅱ	1	30	2年前期	新カリリ科目		基礎看護学実習Ⅱ	2		
		精神看護学方法論Ⅰ	1	30	2	精神看護学援助論Ⅰ	1	30	2年後期	新カリリ科目		地域・在宅看護論実習	2		
		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	2	精神看護学援助論Ⅱ	1	30	2年後期	新カリリ科目		成人看護学実習Ⅰ	2		
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰa	2	90	2	成人看護学実習Ⅰa	2	90	2年	補講	成人看護学実習Ⅱ	2			
		成人看護学実習Ⅰb	2	90	2	成人看護学実習Ⅰb	2	90	2年	補講	成人看護学実習Ⅲ	2			
		成人看護学実習Ⅱ	2	90	2	成人看護学実習Ⅱ	2	90	2年	補講	老年看護学実習Ⅰ	2			
		老年看護学実習Ⅰ	2	90	3	老年看護学実習Ⅰ	2	90	3年	補講（内容変更）	老年看護学実習Ⅱ	2			
		老年看護学実習Ⅱ	2	90	3	老年看護学実習Ⅱ	2	90	3年	新カリリ科目	小児看護学実習Ⅰ	1			
		小児看護学実習	2	90	3	小児看護学実習	2	90	3年	補講	小児看護学実習Ⅱ	1			
母性看護学実習		2	90	3	母性看護学実習	2	90	3年	新カリリ科目	母性看護学実習	2				
統合分野	在宅看護論	在宅看護論総論Ⅰ	1	15	1	地域・在宅看護概論Ⅰ	1	15	1年後期	新カリリ科目	看護の統合と実践	精神看護学実習	2		
		在宅看護論総論Ⅱ	1	30	2	地域・在宅看護概論Ⅱ	1	30	2年前期	新カリリ科目		看護統合実習	2		
		在宅看護論方法論Ⅰ	1	30	2	地域・在宅看護援助論Ⅰ	1	30	2年前期	新カリリ科目					
		在宅看護論方法論Ⅱ	1	30	2	地域・在宅看護援助論Ⅱ	1	30	2年後期	新カリリ科目					
	看護の統合と実践	看護管理	1	30	3	看護管理	1	30	3年前後期						
		安全教育	1	15	3	医療安全	1	30	3年後期	新カリリ科目					
		災害看護	1	15	3	災害看護と国際看護	1	30	3年後期	新カリリ科目					
		看護技術統合実践	1	30	3	看護統合演習	1	30	3年後期	新カリリ科目					
		臨地実習	在宅看護論実習	2	90	3	地域・在宅看護論実習	2	90	3年前後期	新カリリ科目				
			看護統合実習	2	90	3	看護統合実習	2	90	3年後期					